

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 音読や文字の読み書きに関してはおおむねできているが、個人差が大きい。文章を書くにあたっては、「、」や「。」の意識があまりなく、書き忘れていることが多い。 文字を丁寧に書くことはできるが、時間がかかってしまっている。また、字形が整わないことがある。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度は未就学児のため、記載なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 音読用のプリントを作成して、短い文を繰り返し読み、言葉のまとまりを意識して音読ができるようにしている。 平仮名の定着を図るために、授業の導入やベーシックタイム、宿題などで繰り返し復習を行っている。 物語を繰り返し読んだり、動作化したりして物語の世界に入っていけるようにしている。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①授業の導入やベーシックタイムで平仮名の復習を行い、筆順や五十音の読み書きを定着させる。</p> <p>②挿絵から想像したり、動作化したりして、楽しみながら話の内容を理解できるようにしていく。また、読み聞かせをするなどして多くの関連図書に触れられるようにしていく。</p>	<p><検証方法></p> <p>①2学期末の期末テストや、小テストでの正答率</p> <p>②物語文のまとめテストで、問われていることを理解し、問いに合う答えを見つけて書くことができているか。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な読み、書きについては概ね定着している。一部漢字の書き順や、「とめ」「はね」「はらい」などの細かい部分は引き続き練習が必要。 物語や説明文の理解はよくできるようになった。テストなどの問いに対しても、的確な答え方ができるようになっている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 新出漢字練習や書写の時間以外でも、普段のノートやワークシートなどの文字をていねいに書く習慣を付けていきたい。 図書の種類で、図鑑や文字の少ないものばかりを読む傾向がある。文章の多い本や物語本などの本にも親しめるようにしていきたい。 	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 2年生になると学習する漢字の量が2倍になるので、習得するための時間配分や練習量を児童の実態に合わせて調整をする。 文章から読み取ったり、想像したりすることを習慣付けする。ただ読む・聞くだけでなく、文章の大切さについて伝える。 語彙力を増やし、自分の言葉で考えや気持ちを伝えたり、表現したりできる力を付ける。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>自ら考え、言葉を大切に聞いたり伝えたりできる児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 算数科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・10までのたし算・ひき算の計算問題はブロックや指を使い、何とか対応できているが計算ミスは多い。・文章問題では、問われていることの意味を考えるのに時間がかかり、進まないことがある。また、個人差が大きい。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和5年度は未就学児のため、記載なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・具体物を活用したり、ヒントとなる大切な言葉を見付けられるようにしたりしている。・既習事項を思い出させて、新しい学習につながっていることを理解させる。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">① 文章から図にしたり、ヒントとなる言葉に印を付けたりする。② タブレットを活用して繰り返し復習を行い、学習の定着を図る。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">① 2学期末の学期末テストで、自分で問題文章の問われていることを理解し、問いに合った式や答えが書くことができるか。② 2学期末の期末テストや、小テストでの正答率
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・問題文をしっかりと読み、何が(を)どうしたか、を考えて答えることができるようになった。・具体物を使わなくても、自分で書いたり、頭の中で考えたりしても状況が分かるようになった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・個々に得意不得意分野があり、すぐに理解できることもあれば、できないこともある。各単元の習熟度に応じた個への対応はこれからも必要。・上の学年への興味から、学習していない計算方法や数字を不適切に使おうとしてしまうことがある。特に算数では、段階を踏んで指導していくことが大切である。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・学年、発達の段階に応じた学習内容の習熟を徹底する。特に、筆算、かけ算九九といった新しい概念は最初の手順や意味をしっかりと理解することが必須となる。機械的操作や暗記のみにならないように算数本来の特性を生かして、「より早く」「より簡単に」「より正確に」できる力を付けていきたい。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>問題の意図が分かり、適切に解決ができる児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 生活科〉

<p>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・気候などの関係上、四季に合わせて学習を実施することが困難であり、教科書や映像等での学習になってしまう。・草花や昆虫の採取、生き物を育てるなどの制限が多い。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和5年度は未就学児のため、記載なし。 <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・様々な植物の種を観察したり、実際に育てたりして、自然に触れる場を増やしている。・写真や動画を見たり、自分でも撮影したりしながら、四季を感じられるようにしている。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>① タブレットPCを使い、記録写真を撮って経緯を残したり、参考映像を見たりする。</p>	<p><検証方法></p> <p>① 目的に合ったものを見つけて、写真に撮れているか。植物が成長していく経緯が分かるか。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・様々な場面で記録写真を撮ったり、見直して比べたりすることができるようになった。・その場でじっくり観察できないことが、写真や映像で補うことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・小笠原の気候の影響もあり、自然の中で四季を感じる事が難しい。教科書の例や映像での学習となることが多かった。また、一般的な花や虫なども見たことがなかったり、知らなかったりすることもあり、図鑑などで知識を得ることになってしまった。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・できるだけ実際に自然や地域に関わるように体験をさせてあげたい。難しいところは、ICT機器を活用し疑似体験をするなど、活動内容を工夫する。・小笠原学習として、アオウミガメの生態や保護について学ぶ。父島海洋センターと連携して、どのように進めていくかをしっかり検討して、充実したものにしていく。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>自然や地域と親しみ、大切にできる児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 音楽科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・歌唱や体を使った表現に対して抵抗感がある。・「学習のめあて」へのイメージがもてず、楽しむことに終始しようとするところがある。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和5年度は未就学児のため、記載なし。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・帯活動として、リズムに合わせて楽器を自由に触れる時間を設定し、楽器の扱い方や音の出し方、鳴り方を体験的に理解できるようにする。・歌唱や器楽の演奏は、範唱や範奏を何度も繰り返し、自然と覚えられるようにする。・児童の興味関心に合わせてレパートリーを決定し、蓄積していく「うたのほん」を作り、意欲的に学習に取り組めるようにする。・「学習のめあて」は絵図を用いて可視化したり、動作化したり、単元時間分を常時掲載したりすることで、学習の見通しをもてるようにする。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">① 「学習のめあて」の提示方法を工夫する。② 個別指導を通して、児童の疑問点を解消する。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①② 年2回実施される授業評価アンケートの実施内容を分析する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・授業評価アンケートでは、どの児童も肯定的な評価を付けていた。特に個別指導の徹底により、児童の抵抗感がなくなり、思考力や表現力が大きく成長した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・学習への見通しをもち、計画的に取り組むこと。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・楽しみながら学習に取り組むことで、学習内容の確実な定着を図る。・単元ごとに、学習に対して見通しをもって取り組むことができるようにする。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>学習への見通しをもち、自ら計画したり工夫したりすることができる児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 図画工作科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・工作や創作に意欲はあるが、自分の作りたいものを作ってしまう、ねらいから外れてしまうことがある。・個人差が大きく、不器用な児童がいるため、丁寧さに欠けたり、時間内に作品作りが終わらなかったりすることがある。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和5年度は未就学児のため、記載なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・本時のねらいを明確にしてから、作業に取り組ませている。・基本的な動きを一緒にしたり、お手本となる作品を一緒に作ったりすることで、技術力を高めている。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①本時のねらいに沿って活動できたか自分で振り返る時間を作る。②自由な表現への自信を高められるような活動や評価の工夫をする。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①ワークシートまたはタブレットでの振り返りの記述をする。②作品を写真に撮り、よい点などのコメントを書き込んで残していく。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・自分の作品の上手いいったところ、友達のよかったところなどの意見を言えるようになった。・自分と友達の作品を比べ、よりよいものにしようと工夫するようになった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・自分のアイデアが思い付かないときに、安易に友達のアイデアをまねしてしまったり、他人頼りになってしまったりすることがある。まずは、じっくり一人で頑張る時間をしっかりとりたい。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・友達の意見を参考にすることはよいが、自分の考えや思いが作品作りに生かされるようにする。・空き箱や廃材を使った作品作りや造形活動が多いので、早い時期から材料集めをし、家庭へも通知し協力を仰ぐ。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>自分の表現したい思いをもち、じっくりと創作できる児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 体育科〉

<p>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・ゲーム遊びなどで、複数のチームやグループを作ることが難しく、多様な活動や作戦、考えが出にくい。・体力の個人差が大きい。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和5年度は未就学児のため、記載なし。 <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・2年生と合同の体育として、できるだけ人数を増やしている。・グループでの運動の機会をゲーム遊びだけでなく、器械運動系の遊びや、体づくり系の遊びでも取り入れ、チームでの取組や、協働学習の機会をできるだけ増やしている。・全員ができたことを実感できるようにスモールステップで指導している。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①様々な単元、種目でチーム学習や協働学習を取り入れ、多様な考え方、取り組み方に触れられるようにしている。②少しずつ活動量を増やしていき、体力向上を目指す。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①2学期の運動遊びを考えるときに、自分の意見を言ったり、友達と話し合ったりして決めることができたか。②鉄棒カードやなわとびカードなどのがんばりカードの進捗状況を確認する。 (来年度の体力テストの結果も参考にする。)
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・学んだ基本的な動きを取り入れ、意見交換しながら自分たちで考えた遊びやコース作りができた。・がんばりカードを使うことで、様々な技にチャレンジするようになった。練習量も増え、体力づくりにもなった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・人数が少ないため、グループでの対戦など難しい種目もある。チームも偏ることがあるため、工夫が必要。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・苦手な運動では、十分に動きや技を習得していないものもある。もう一度初期段階に戻り、基本的な動きや技の習得に時間をかける必要もある。・個々により、得意不得意があるため、ペア学年の実態に応じたチーム分けやペアの組み方などを工夫する。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>意欲的に運動に取り組み、下学年の手本を見せられる児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>・令和7年度学力調査の結果から、「話し手が知らせたいことを落とさないように聞いている。」66.7%、「相手に伝わるように、経験したことに基づいて話している。」33.3%が目標値を下回っている。また、物語文の読み取り「場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える。」説明文「文章の中の重要な話を考えて選び出している。」も目標値を下回っている。</p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>・令和5年度 未就学児のため記載なし。</p> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>・朝の会で日直のスピーチを行い、内容を詳しく分かるように話すことを意識させている。また、聞いている方は質問や感想を言うことで、話をよく聞いて大切なことを聞き漏らさないようにすることを意識させている。</p> <p>・「書く」ことに対しては、週末日記の宿題を出して書き方の定着を図っている。</p> <p>・「読み取り」では、場面の様子や登場人物の行動を丁寧に確認して、何が大切な言葉なのかを見付けられるように授業を進めている。</p>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①朝の会などに、スピーチする機会をつくる。それに対して、質問や感想を伝え合う時間を設ける。</p> <p>②日記や観察記録など、文章構成を意識したものを書く機会を設ける。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①スピーチや発表の際に、相手に分かるように話しているか。話し手の内容に沿った質問や感想が言えているか。</p> <p>②習った漢字、ノートや原稿用紙を正しく使い、文章構成を意識したものが書けているか。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <p>・スピーチや日記など、学んだことを活かして話したり書いたりすることができた。</p> <p>・質疑応答をすることで、話をよく聞いて内容にあったことを言えるようになった。</p> <p>＜課題＞</p> <p>・語彙数が少ないので、表現がパターン化してしまう。</p> <p>・習った漢字が抜けてしまうことがある。</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>・読書や漢字学習から語彙を増やして、表現力を豊かにする。</p> <p>・一つの言葉を言い換えをして、表現方法を増やす。</p> <p>・漢字や文章の書き方を定着させるために、引き続きスピーチや日記を続けていく。</p>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>自分の思いや考えを表現し、詳しく様子を伝えることができる児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 算数科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">令和7年度学力調査の結果から、「位取り」「繰り下がりのあるひき算」「文章問題（立式）（式から問題文を選ぶ）」「何時何分を示す時計の理解」の問題で目標値を下回っている。文章問題など、必要な情報を読み取って答えを求めることに課題が見られる。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">令和5年度 未就学児のため記載なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">問題文を読むときに、ポイントになる言葉や数字を確認する。図や絵などに表して考えることができるように取り組む。ドリルやプリントなどで反復練習を行い、学習内容の定着に努める。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①日常的に算数を用いて解決できる方法を考えたり、問題と式との関係を考える場を設けたりして、算数的思考を高める。</p> <p>②ベーシックタイムや空き時間を利用し、デジタルドリルで自主学習を進める。</p>	<p><検証方法></p> <p>①算数の言葉を用いて説明したり、日常の中で学んだ算数を活用したりできているか。</p> <p>②デジタルドリルを自分で進め、反復学習ができているか。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">普段の生活の中でも、算数で学習したことを思い出して使うような場面があった。デジタルドリルを活用し、復習することができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">取り組みに差があり、終わらせられる子とそうでない子が出た。見直しがきちんとできずに、ミスをすることがある。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">問題文を読むときは、大切な言葉や数に線を引いたり丸で囲んだりして、自分なりに分かりやすい方法を見付けるように指導する。見直しをよくするように声かけをする。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>学んだことを、他の場面でも生かして問題解決ができる児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 生活科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・現状で知っていることに満足し、新たな発見や疑問をもって取り組もうとする意欲が弱い。・自分の住んでいる地域や人のことについて深く知るための疑問（質問）を考える時に、意図とずれたことに意識が向いてしまいがちである。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和5年度 未就学児のため記載なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・観察や、探検に行く前にめあてをはっきりさせ、具体的な視点を示す。・使える言葉を確認したり、似た言葉に言い換えたりすることで、語彙を増やしていく。・より良くするための工夫や進め方について助言する。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①観察カード等のワークシートは、事前に説明を十分にいき、例を示す。②動画なども利用して興味関心を広げ、思考を広げられるようにする。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①視点を理解した言葉を用いて記述や発言ができているか。②視点に沿った質問を考えて発言したり、記述したりしているか。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・視点を明確にすることで、ワークシートなどへの記述が自分でできるようになった。・動画を見たり友達の考えを聞いたりして、自分の考えを広げることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・まとめなどで、語彙力が乏しく適切な言葉を選んでどう表現すればいいかわからなくて進められない。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・次学年では、理科・社会科になる。・様々なまとめ方や言葉を使った表現方法を知って、自分なりの表現方法ができるようにする。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>語彙力を高め、適切な言葉を使って表現できる児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 音楽科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・学習が楽しくなってくると、めあてから離れて思い思いの活動を始めてしまうことがある。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和5年度 未就学児のため記載なし <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・帯活動として、リズムに合わせて楽器を自由に触れる時間を設定し、楽器の扱い方や音の出し方、鳴り方を体験的に理解できるようにする。・歌唱や器楽の演奏は、範唱や範奏を何度も繰り返し、自然と覚えられるようにする。・児童の興味関心に合わせてレパートリーを決定し、蓄積していく「歌の本」を作り、意欲的に学習に取り組めるようにする。・可視化した「学習のめあて」を提示し、活動中も内容を繰り返し確認したり、めあてに沿った声かけや価値付けをしたりする。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①動画等の撮影，視聴を通して，自分たちの演奏を客観的に見られるようにする。②「学習のめあて」に対する指導を工夫する。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①年2回実施される授業評価アンケートの実施内容を分析する。②各授業における発言や振り返りの内容を分析する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・授業評価アンケートでは，どの児童も肯定的な回答をしていた。・「学習のめあて」を理解し，授業ごとに見通しをもって学習に臨むことができた。特に，それぞれの授業で身に付けたい内容を，自分たちで意識できるようになった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・特になし。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・楽しみながら学習に取り組むことで，学習内容のより確実な定着を図る。・次の活動への切り替えに時間がかかってしまう場合は，十分な時間を確保したり，素早く切り替えたりするよう声かけをしたりする。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>自分の表したい音楽表現を明確にイメージし，様々な工夫をしながら取り組むことができる児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 図画工作科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・失敗を恐れていたたり,他人の目が気になっていたり,表現したいことはあるがどうしていいかわからないとやらないで終わってしまうことがある。・経験の乏しさや想像力の低さから,既存のものに固執したり,新しいものを生み出したりすることへの意欲が低い。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和5年度 未就学児のため記載なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・友達の良いところを見付けて伝え合ったり,お互いの良いところを真似したりして取り組む。・表現方法の良いところを褒めたり,助言・提示したりして活動の幅を広げる。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①教科書の作品例から作り方や表現方法を想像し,試す時間を設ける。②作品作りにおいて,作成過程で声掛けをし,個に応じた助言や補助を行う。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①試したことが,本作品作りに活かされているか。②出来上がった作品が,本人の理想している物となっているか。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・友達同士よい表現をお互いに取り入れながら,作品作りをすることができた。・方法の例示を見たり模倣したりすることで,作品の完成度が上がった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・友だちの作品を意識しすぎて,似たような作品になってしまうことがある。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・友達の良いところは取り入れつつ,そのまま使うのではなく,自分なりの工夫を入れてアレンジできるように指導していく。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>自分の思いや形を,人に流されずに自分なりに表現できる児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・体を動かすのは好きだが、苦手とする運動やできない運動に対して始めから諦めてしまう傾向が見られる。・できることと、できないことへの偏りが見られる。・少人数過ぎるため、多彩なグループを作ったり、意見を出し合ったりすることが困難である。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和5年度 未就学児のため記載なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・1年生と合同で授業を行い、スモールステップで達成感を味わわせる活動をする。・多様な動きをする運動を多く取り入れ、様々な体の部位を動かしたり体幹を鍛えるようにしたりする。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①遊びの要素を取り入れ、楽しみながら体を動かす。②基本の動きから、応用する動きを考えさせ（一人または友だちと）、技能向上につなげる。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①毎回の授業で、どんな運動にも積極的に参加しているか。②運動や活動をする際に、自分の技能を高めようと意識したり、努力したりすることができたか。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・どんな運動にも積極的に参加して、楽しんで取り組むことができた。・友達と協力したり、競い合ったりする中で、運動の質が高まった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・できない、怖いという気持ちが先に出て、活動が消極的になってしまう児童がいた。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・始めは慎重になって消極的なことや、やりたいけどどうしたらいいかわからずに進められないときには、スモールステップや丁寧な説明や模範が必要である。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>最後まであきらめずに挑戦し、自らの運動能力や思考を高めていける児童</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学力調査の学級平均正答率は66.7%と目標値(67.5%)、全国平均正答率(67.7%)よりやや低い。また、基礎79.7%、活用40.6%と活用問題の正答率が全国平均正答率(48.8%)よりも低い。 ・「漢字を書く」「最近の出来事について話す」「文章を書く」の項目で全国平均正答率を下回っている。このことから既習事項の漢字の習得が不十分であることや相手に伝わるように事柄の順序を考える力が不十分であることが分かった。また、「文章を書く」問題については、出題された作文を時間内で書く活動が不十分だったと考えられる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①語彙が少ないため、音読の際に一語一語の区切りや意味理解が難しい様子が見られること。 ②読書では、文字を追うだけで内容理解までいかず、進んで物語を読むことが難しいこと。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①文字定着と読み強化のための音読練習を家庭学習と隙間時間などに継続して取り組ませる。 ②挿絵から想像する、動作化することで言葉理解につなげ、楽しみながら身に付けられるようにする。また、多くの関連図書に触れることで興味関心を広げるようにする。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の書き取りについては、週に1回小テストを行っている。学期末にはまとめのテストを行い、90点以上取れるまで再テストを行っている。また、普段から既習の漢字を使って文章を書くように指導している。 ・日直は毎朝テーマに沿ってスピーチをしており、その他の児童には質問や感想を伝える取組を行っている。 ・文章を書いたりスピーチをしたりする際には、構成メモから文章を組み立てて書いたり話したりするように指導している。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①毎朝の日直スピーチを行う。また、聞き手は感想を発表する。 ②週1回小テストを行い、文章の中で既習の漢字を使うように指導をする。 ③スピーチや長い文章を書く際には、構成メモを書かせ、文章を組み立てることを指導する。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①話し手に合った質問や感想が言えているか、毎回その場で確認する。 ②学期末の漢字のまとめテストで全員が90点以上取れているか確認する。 ③筋道を立てて自分の考えをまとめることができているか、文章やスピーチの内容から確認する。 </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①毎朝の日直スピーチを行う。また、聞き手は感想を発表する。 ②週1回小テストを行い、文章の中で既習の漢字を使うように指導をする。 ③スピーチや長い文章を書く際には、構成メモを書かせ、文章を組み立てることを指導する。 	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①話し手に合った質問や感想が言えているか、毎回その場で確認する。 ②学期末の漢字のまとめテストで全員が90点以上取れているか確認する。 ③筋道を立てて自分の考えをまとめることができているか、文章やスピーチの内容から確認する。
<p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①毎朝の日直スピーチを行う。また、聞き手は感想を発表する。 ②週1回小テストを行い、文章の中で既習の漢字を使うように指導をする。 ③スピーチや長い文章を書く際には、構成メモを書かせ、文章を組み立てることを指導する。 	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①話し手に合った質問や感想が言えているか、毎回その場で確認する。 ②学期末の漢字のまとめテストで全員が90点以上取れているか確認する。 ③筋道を立てて自分の考えをまとめることができているか、文章やスピーチの内容から確認する。 		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日のスピーチにより、自分の意見や感想などをスムーズに言えるようになった。また、人前で発表することへの抵抗が少なくなった。 ・文章を書く際に習った漢字を使って書けるようになった。 ・2学期の漢字まとめテストでは、全員が90点以上を取ることができた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を組み立てることへの苦手意識をもっている。 	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を一人で書く際に、不安そうな様子が見受けられたので、構成メモから自分で文章を組み立てて創作できる力を身に付ける。 ・既習漢字の復習を行う。 		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>自分の考えを文章や言葉で表現できる児童</p>			

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 社会科〉

<p>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度の学力調査において、社会科の調査は実施していない。 ・写真や地図などを読み取り、課題を見いだすことに課題がある。 ・特殊な地域ということもあり、身近な地域の学習に関して学ぶことが難しい単元がある。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当項目なし。 <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真や地図から課題を見いだすことができるように、複数の資料を比較する活動を多く取り入れている。 ・身近なことを題材にして、関心をもてるようにしている。また、インターネットを活用して授業を進めている。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①比較しやすい複数の資料を用意し、資料から課題を見いだすことができるようにする。 ②身近なことに置き換えたり、インターネットの資料や動画を活用したりして、考えを広げ、理解を深められるようにする。 	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①自分なりに課題を見つけて、調べたことをまとめることができているか確認する。 ②単元テストの「知識・理解」の項目においてB基準以上を達成しているかを確認する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な出来事に関心を持ち、実際に見学やインタビューをして自分たちの暮らしに関わっている人への理解を深めることができた。 ・単元テストの「知識・理解」の項目においてB基準以上を全員が達成することができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を見付けることや調べる方法を考えることが苦手である。 	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料やグラフの適切な読み取りができるようにする。 ・資料や発問等を工夫して、自分なりに課題を見付けられるようにする。また、その課題をどうしたら解決できるのか調べる方法を考えたり、実際に調べたりすることができるようにする。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>自分たちの暮らしに関心を持ち、社会の一員として自分にできることを考えられる児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 算数科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度の学力調査の学級平均正答率は81.5%と目標値(74.0%)、全国平均正答率(75.6%)より高い。・「10000までの数・分数」の問題の正答率が低かった。4位数の数の表し方や数の相対的な大きさについての理解が不十分であったことが分かった。・「はこの形」に関する問題にも課題が見られた。直方体の辺や面の数への理解が不十分であることが分かった。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">①文章を読んで問われていることを理解することが難しいこと。②「5は1と4」「5は2と3」のように、「片方が1増えたらもう一方は1減る」法則を見付けても、その後の学習に生かせず毎回始めから行う様子が見られること。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none">①文章から図に表したり、ヒントとなる言葉に印を付けたりする。②タブレットなどの活用で繰り返しの反復学習を行い、具体物も使いながら理解を促す。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・問題の場면을絵や図、写真などを用いて視覚的に示している。・文章問題に取り組む際に、問われていることやヒントになる言葉の色を変えたり、アンダーラインを引いたりして板書をしている。・自分の考えを言葉や式を使って書き表し、説明する機会を設けている。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①問題場면을視覚的に示したり、具体物を操作したりする活動を多く取り入れる。②授業の導入時やベーシックタイムに既習内容を復習する時間を取る。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①文章問題において正しく立式できているかを確認する。②学期末テストで80点以上取れているか確認する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・大切な言葉や数字を見付けて、図に表すことで視覚化し立式・解答する力が高まった。・学期末テストで全員が80点以上を取ることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・タブレットやプリント学習を通して復習を行ったが、学習が終わると忘れてしまうことが多く、定着に時間がかかる。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・既習内容の復習を繰り返し行う。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>学習したことを積み重ね、問題解決できる児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 理科〉

<p>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・令和7年度の学力調査において、理科の調査は実施していない。・今年度から理科の学習を始めたばかりなので、科学的思考がまだ身に付いていない。・科学的事象への興味・関心は高いが、理由や根拠を探ろうとする意識が低い。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・該当項目なし。 <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けさせ、毎時間や各単元の最後に振り返りの時間を取っている。・「学習のめあて」、「問題」、「予想」、「結果」、「まとめ」などの授業の流れを明確にすることで、一連の科学的思考の流れを身に付ける。また、科学的事象への理解を深まるように、児童が既に知っている事項でも、理由や根拠を問いかけている。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①各単元の最後に振り返りや復習を徹底させる。②授業の流れを明確にして進め、理由や根拠を問いかけて、自分で課題を見付けられるようにする。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①単元テストの「知識・技能」の項目においてB基準以上を達成しているかを確認する。②単元テストの「思考・判断・表現」の項目においてB基準以上を達成しているかを確認する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・単元テストの「知識・技能」、「思考・判断・表現」の項目において全員がB基準以上を達成することができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・問題を問いかけた際に、調べ方や解決方法を自分自身で探求する姿勢を高めることができなかった点が課題である。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・実験の結果に対する考察も自分の言葉でまとめられるように穴埋め式等から支援していく。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>日常から課題を見付け、解決に向けて考えられる児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 音楽科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">多くの児童が主体的に活動に取り組んでいるが、活動内容によって好き嫌いや集中力にバラつきが見られる点が課題である。音楽能力や感性が優れている児童が多い反面、活動の趣旨を理解するまでに時間がかかることも多く、学習のめあてをいかに分かりやすく明確に伝え、スムーズに学習活動に取り組める工夫や授業の組み立てが必要である。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">最初の常時活動で様々な楽器や歌唱の仕方を実践し、音楽の面白さを体感できるようにしている。器楽は積極的に取り組める児童と消極的な児童と二極化してしまうことがあるので、苦手意識をもつことがないよう、できていることを大いに褒め、発表する場を設け、「できる」ことを体感させていく。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">特に器楽の活動に対して前向きな児童が多いことから、リコーダーを主体として、小さなことでもできたことをきちんと評価し、次のステップに必要な練習について個人レッスン形式で伝えていく。歌唱や、鑑賞についても同様であり、まずは「自分はできるんだ」という自信をもたせていく。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①年2回のアンケート実施②授業ごとの振り返り、題材のまとめの活動の徹底	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①結果の分析及び、それに基づいた授業の改善②振り返りの結果から、技能の成長を児童が実感できるような評価を行い、学習の定着化を図る。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">課題に対して主体的に音符の階名や、リコーダーの運指を調べて取り組むことが増えた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">技能を習得するまでの量的な反復練習や、振り返りによる学習内容の定着には、まだ課題が残る。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">反復練習による技能の向上個人レッスン形式による「できる」ようになるための支援
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none">自ら進んで課題に粘り強く取り組み、思いや意図を表現できる児童	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 図画工作科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

多くの児童が造形遊びや表現の活動そのものを楽しんでいるが、題材の趣旨を理解しきれていないまま、自分のやりたい遊びに終始してしまう場面があることが課題。また、自分のイメージに技能が追いつかないことで落胆してしまったり活動に消極的になってしまったりする児童も少なくないため、造形遊びと絵や立体に表す活動で変化をつけるなど授業の組み立てを工夫していく必要がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

【課題】自分が何をどのようにすればよいのか分からず、なかなか制作を始められない児童がいる点が課題である。小学校入学前までに習得した既成概念が影響しているのか、いわゆる「可愛い絵」や「カッコいい形」をまねる傾向があり、独自性を追求する作品がなかなか見られない点が課題である

【改善策】授業の導入で本時のめあてを提示し、教科書の該当箇所を全員で確認することで、制作方法や作品例を知り、円滑に制作を始められるようにする。制作過程において一人一人の作品の良い点を具体的に褒めることで、独自性を追求する作品制作をできるようにする。

【評価】図画工作の授業が始まるという時点で気持ちの高揚があるため、導入時にめあてを理解したり必要な説明を聞いたりすることが難しい児童がいる。楽しみな気持ちや湧きあがったイメージを尊重しながらも、めあてを意識できるような導入時の言葉かけや板書の工夫、授業の組み立てを継続していく必要がある。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

授業の始めに授業の流れとめあてを示して確認することを徹底し、授業終わりの振り返りをワークシートに記入して自分の取り組みを思い出しながら、次回に向けてやるべきことや考えていることを言語化してまとめることを習慣化できるようにしている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①年間2回授業評価アンケートを実施する。
- ②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。

＜検証方法＞

- ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析
- ②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

・自分らしく発想したことを基にイメージをふくらませ、絵や立体に表す活動や造形遊びだけでなく、鑑賞の活動も楽しみながら取り組むことができた。

＜課題＞

・題材の趣旨をつかみきれずに自分のやりたい遊びに夢中になってしまうことがある。説明を聞いて軌道修正できることもあるが、発想の広がりや逸脱の違いについて区別する力を育てることが課題である。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

・図画工作の授業の中で活動を楽しみながら学ぶことと、自分がやりたい遊びや好きな遊びをすることの違いを理解し、児童が納得して取り組めるような導入や展開の工夫をする。その際、強制力が強すぎるなど表現活動が好きだという気持ちや楽しさを奪ってしまわないような配慮も必要である。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿

題材の趣旨を理解し、活動を楽しむ中で見方や感じ方を広げることができる児童

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">令和7年度1学期授業評価アンケートでは、「体育の授業は好きか」や「体育の授業は分かりやすいか」という項目に関して、全ての児童が肯定的な回答をしている。令和7年度6月実施の体力テストにおいては、男女ともに全国平均値を上回っている。しかし、結果を見ると児童によって身に付いている技能に開きがあることが分かった。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">ゲーム遊びなどで複数チームを作ることが難しく、多様な活動や作戦、考えが出にくいこと。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none">様々な場面で共同学習を取り入れ、多様な考え方や取り組み方に触れられるようにする。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">技能のポイントを絞って伝え、児童同士でアドバイスし合う場を作る。楽しんでできるような場や方法を設け、スモールステップで達成感をもたせる。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①技能のポイントを絞ったり、可視化したりして分かりやすく提示する。②振り返りカードなどを活用したり、友達同士でアドバイスし合ったりする場を作る。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①授業中の動きを見取る。②振り返りカードや活動後の振り返りの様子を見取る。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">技能のポイントを絞って説明したことで、意識するポイントが明確になり、それぞれが運動技能を高めることができていた。毎回の授業で目標を立て、振り返りを丁寧に行ったことで、自分の成長や課題が明確になり、自身の運動技能を高めることができていた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">単元によって、児童の意欲や苦手意識に差が出ていた。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">どの単元でも全員が達成感をもてるように、スモールステップで指導をしたり、基礎練習に時間をかけたりして指導の工夫を行っていく。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>運動することを楽しみ、自身の運動技術を高められる児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第4学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度の学力調査の学級平均正答率は56.8%（基礎60.0%、活用50.0%）と全国平均正答率より10.0%低いことが分かった。・「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」は全国平均正答率を上回っている。また、「書くこと」についてはテスト時間内に最終問題の作文まで着手できず、無回答である児童や途中で終わってしまった児童がいるなど、テストに慣れていない現状が見えてきた。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・漢字の練習で新出漢字だけを書き続けたり、熟語のみを書き続けたりする練習ではなく文章を自分で考え、文章中に新出漢字を用いた熟語を取り入れて練習する。・詩や俳句、短歌などの短い文章を、折にふれて書く。・物語の感想文や説明文の要約、お礼の手紙や新聞の作成など、比較的長い文章を書く機会を数多く設定する。・「話すこと・聞くこと」に関する事項については未記載であった。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫など、伝える相手、目的を意識した作文指導に加えて、文章の構成を意識すること、時間内に書くこと、既習の漢字を使うことを徹底する。</p> <ul style="list-style-type: none">・意見があっても、どのように発表すればいいのか思い付かない場合は、友達の発表を参考にして意見を話すこと、書くことを指導している。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">① 新出漢字をノートに練習する際に短文を作成させる。② 友達の意見を聞き、内容に対して必ず反応することで、聞くことに対する必要感と発言力を養う。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">① 学年末に学力テスト過去問題の作文に取り組み、7割の正答率を取る。② 朝のテーマスピーチで「話す」「聞く」際の文章構成力、反応を見る。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">① 文字を書く機会が単純に増えたことで漢字や熟語の定着率が向上した。② 発言の回数が増え、発表の機会が多くなった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">① 短文作成の回数に個人差があり、児童によって定着率に差異が見られた。② 発言の総量は増えたが、内容の精緻化には課題が見られた。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・タブレットによる指導が増えている傾向がある中で、文字を書く機会を増やすことには一定の効果がある。併せて全員が必ず実行できるよう、配慮する。・発言回数の回数は担保しつつ、自分の発言内容が、求められていることに即しているのか、考え、発表できるような方策が必要である。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>学年に応じた身につけるべき漢字や熟語を定着させ、自分の言葉で文章を書くことができる児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第4学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度の学力調査の学級平均正答率は 53.3%（基礎 54.7%，活用 50.0%）と全国平均正答率を 16.9% 下回っている。 <p>「地域や市の様子」以外の項目で全国平均正答率を下回っており，複数の資料の中から正解を見付ける力に課題がある。また，無回答の項目が平均を下げている様子も見られる。</p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・教科書や地図帳と併せてインターネットで調べ学習等を行う。実生活を通じて理解することが難しい内容も，間接的に理解させる。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・社会科の用語を覚えるために，言葉と意味を関連付けて話をする。・問題を理解するために，毎時の核となるキーワードを授業内で指定し記述（入力）させる。・地図帳と併せてインターネットで調べ学習などを行う。実生活を通じて理解することが難しい内容も，間接的に理解できるよう支援する。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">① 文章・数値などの資料について「何を示した資料か」を毎回考え，見出しを見る習慣を付ける。② 「社会のキーワード」として，毎時タブレットに入力することで社会科の言葉を学習していく。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">① 単元テストの正答率や学力テストの結果から見取る。② 単元の最後にスライド，もしくは新聞づくりを通してまとめを行い，キーワードが使えているかを見取る。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">① 資料の内容を意識してスライド内の文章を作ることができた。② タブレットで毎時間スライドを作ることにより，授業での重要な語句を焦点化し，学習する習慣が身に付いた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">① 児童によって作成できる文章に差異がある。② スライドで1枚ずつ区別けることで，情報は整理されるが，スライド同士の内容の定着に課題がある。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・提示されている資料が学習問題のどこにあたるのかを明確に意識しながらまとめることに留意する。・単元をまたいでも学習内容はつながっていることを意識させる。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>ICTの活用をはじめとして，資料を読み解き，自分の考えを文章にすることができる児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第4学年 算数科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度の学力調査の学級平均正答率は69.4%（基礎74.4%，活用51.4%）と全国平均正答率を3.0%下回った。・「数と計算」「図形」「測定」「データの活用」において全国平均を下回ったが、いずれの問題においても学級内での回答率、正答率に大きな差がある。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・問題に取りかかる際に、確かめや見直し、答えの見当を付けさせることを徹底させる。その上で基礎基本の定着を図る。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・問題に取りかかる際に、答えの見当を付けさせることを徹底させる。また、単位がある問題の場合は具体物を提示するなど、量感を養い、その上で基礎基本の定着を図る。・筆算ではマスをそろえる、数字を丁寧に書くなどの方策を用いて位の取違いや重複などがないか確認させる。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none">① 単位の一覧表を教室に掲示し、長さ、重さ、かさなど、既習の単位について確かめさせる。② 単元の終わりにスモールステップでの練習問題に取り組み、基礎基本の定着を図る。	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none">① プレテストを行い、結果から見取る。② 単元テストの正答率や学力テストの結果から見取る。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none">① 単位について既習のもの、未習のものとの関連を示すことで、単位同士のつながりを意識することができた。② 単元の終わりにプレテストを行い、定着を図ることができた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none">① 単位自体（メートル、リットル、グラム、）については一定の定着がみられるが、量感が伴っていないことが課題である。② 文章題では手が止まってしまう傾向にあることが課題である。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・量感を意識できる活動をより多く取り入れる。・取り組む文章題を増やすなど、文章題の理解を促すための方策をより多く取り入れる。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>問題の場面を想像しながら、友達に伝え、解答できる児童</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第4学年 理科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学力調査の学級平均正答率は33.1%（基礎38.0%，活用22.2%）と全国平均正答率を13.6%下回った。 ・「物質・エネルギー」「生命・地球」において全国平均を下回ったが、いずれの問題においても学級内での正答率に大きな差がある。また無回答を含めた後半の回答率の低さが目立っている。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理的思考の土台となる基礎的基本的な知識や技能を確実に身に付けさせるために、各単元の最後に振り返りや復習を徹底させる。 ・各単元において、既習内容を生かして問題に対する予想を自分の言葉で表現させることによって、論理的に思考することを習慣化させる。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋外での活動をできるだけ増やし、実験、観察、映像教材などの効果的活用等を通じ、理科への興味関心の一層の向上を図る。 ・観察の記録にはタブレットを用い、同一様式で連続してまとめていく。観察対象の継続的な変化を読み取りやすくし、理解度を向上させることができるように支援する。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 屋外での活動、実験、観察、映像教材の活用など、活動的な内容を充実させる。興味関心の向上と学習の定着を図る。 ② タブレットを用いた学習活動を用い、単元の学習内容をスライドにまとめられるよう支援する。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 単元テストの正答率や学力テストの結果から見取る。 ② 各単元の終わりに単元の内容がスライドなどにまとめることができているかを見取る。 </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 屋外での活動、実験、観察、映像教材の活用など、活動的な内容を充実させる。興味関心の向上と学習の定着を図る。 ② タブレットを用いた学習活動を用い、単元の学習内容をスライドにまとめられるよう支援する。 	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 単元テストの正答率や学力テストの結果から見取る。 ② 各単元の終わりに単元の内容がスライドなどにまとめることができているかを見取る。
<p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 屋外での活動、実験、観察、映像教材の活用など、活動的な内容を充実させる。興味関心の向上と学習の定着を図る。 ② タブレットを用いた学習活動を用い、単元の学習内容をスライドにまとめられるよう支援する。 	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 単元テストの正答率や学力テストの結果から見取る。 ② 各単元の終わりに単元の内容がスライドなどにまとめることができているかを見取る。 		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 実物や映像等、具体的事象を提示することにより、興味・関心が向上した。 ② タブレットで毎時間スライドを作ることにより、授業での重要な語句を焦点化し、学習する習慣が身に付いた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味、関心が芽生えても、自ら内容をさらに深めようとすることに課題がある。 	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験や現象等も、映像より実物を重視することで興味関心が高まる傾向にある。 ・理科の適切な用語を用いて自分の考えを表現できるように留意する。 		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>身の回りの自然科学的な事象に興味・関心をもち、主体的に解決し、考えを表現することができる児童</p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第4学年 音楽科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・どの児童も器楽や鑑賞，創作の活動については意欲的に取り組めるが，歌唱については他人にどう見られているかという点が気になる児童が多く，本来の実力を発揮しきれていない側面がある。各活動において，個人のよさをより引き出すための授業のルールや課題の設定が必要である。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・帯活動として，リズムに合わせて楽器を自由に触れる時間を設定し，楽器の扱い方や音の出し方，鳴り方を体験的に理解できるようにする。・リトミックをベースとして，周囲の音を聞いたり，それらに合わせて体を動かすなどの表現をしたりする活動を取り入れ，表現力や思考力，集中力が高まるようにする。・歌唱や器楽の演奏は，範唱や範奏を何度も繰り返し，自然と覚えられるようにする。・児童の興味関心に合わせてレパートリーを決定し，蓄積していく「歌の本」を作り，意欲的に学習に取り組めるようにする。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・個々の生徒が自分の課題に集中して取り組むための座席配置。・授業の振り返りシートを用いた自己評価。・個人レッスンによる個々の技能の伸長。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>① 授業の振り返りシート。</p> <p>②個人レッスン(技能の指導だけではなく，よくできたところをきちんと言葉で評価し，表現に対する自信を身に付けさせる。)</p>	<p><検証方法></p> <p>①毎時間「どれだけ自分が授業に集中できたか」「どれだけ授業の内容を理解できたか」を確認する。</p> <p>②演奏発表による検証。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・アンサンブル練習及び個人レッスン形式による指導で個々の技能の向上が見られた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・個々の技能を生かした協働的な学習(アンサンブルや重唱課題)に取り組む時間があまり取れなかった。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・毎授業，活動のめあてを簡潔かつわかりやすく提示し，課題に取り組む体制をスムーズに作る。・グループ活動の割合を増やし，協力しながら取り組んでいく課題の設定。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>お互いのよさを認め合い，協力しながら主体的に課題に取り組む児童</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第4学年 図画工作科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

多くの児童が表現活動そのものは楽しんでいるが、自ら主題を見付けたり自分らしくイメージして表現したりするのが難しい児童が多数を占めていることが課題。また、人間関係に課題があることで活動に支障をきたす場面も少なくない。それぞれがよりよい表現を目指して活動を楽しむためのルールの設定や授業の組み立てが必要である。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

【課題】 時間内に早く作品を完成させることを意識するあまり、色の塗り方や制作が雑になってしまう点が課題である。日常的に目にしているデザインに強く影響されて、いわゆる「マンガ顔」や「キャラクター」をまねたような作風になってしまう児童がいる点が課題である。

【改善策】 単元ごとに作品カードを書かせ、作品の写真を記録することで、早く完成させることよりも作品の完成度を重視することを伝え、自身の作品の完成度をより高めるような意欲付けや動機付けを行う。制作過程において一人一人の作品の良い点を具体的に褒めることで、何かに似せるのではなく、自分の独自性を追求する作品制作をできるようにする。

【評価】 徐々に改善傾向にあるが、今後も作品カードの記入や発表を通じて相互の作品を鑑賞する場面を重視し、単純な見た目の良さに触れるだけで終わらせず、工夫を凝らした部分や発見したことについて価値付けられるよう、より具体的な支援をしながら協働的な学びの場を設定していく必要がある。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

昨年度までは多くの児童が自分の行ったことを記録するだけで精いっぱいだったが、授業ごとの振り返りワークシートの入力や作品カード、活動のまとめなどを書く際に、発見したことや工夫したことを中心に振り返って考えながら書くよう声かけをし、必要に応じて支援しながら活動を充実させている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①年間2回授業評価アンケートを実施する。
- ②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。

＜検証方法＞

- ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析
- ②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

個々の作品を合同で展示するための共同作業に取り組む中で、やるべきことに集中し、人間関係の課題を乗り越えて互いを尊重しながら協働的な学びを経験することができた。

＜課題＞

図工室内での規律を守ることや微細運動に課題がある児童がいるため、扱いに注意が必要な用具等を使わせることが難しい状況もあり、刃物を使う経験を十分に積むことができなかった。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・安全面に関する題材ごとの注意事項の確認は毎時繰り返し、図工室内の規律も定期的に確認することを継続する。小さな緩みを見過ごさずに指導していく必要がある。
- ・微細運動に課題がある児童に特に注意をはらいながら、刃物等の扱いに徐々に慣れるような経験を積む必要がある。必要に応じてT2を依頼するなど、安全面に配慮しながら少しずつでも実施していく。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿

用具の扱い方を正しく理解して技能の向上に主体的に取り組み、表現したいことを形にできる児童

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第4学年 体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・体力テストでは、男子は20mシャトルランに課題が見られた。女子は在籍人数から、単純な比較自体は困難である。学級得点平均値は全国得点平均値を上回るが、個人差が大きいことには留意することが必要である。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・実技に入る前の段階であらかじめ児童自身が要点を踏まえ取組ができるよう、動画教材などを用いて理解を促す。・児童同士でお互いの動きを確認し話し合ったうえで、改善し、繰り返し取り組む。・タブレット端末の動画撮影機能を用い、自らの動きを確認し、次の取り組みに生かす。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・授業後にできるようになったこと、考えたことを振り返る活動をタブレットで行い、その内容に対し、教師が助言を行う。・映像等の視覚的な資料を用意し、技のレベルや内容などを提示し、児童が積極性をもって運動に取り組める環境を作る。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">① タブレットでの振り返り活動の際、児童自身の考えを言語化できるように言葉かけをしていく。② 視覚的な資料を用意し、児童一人一人が自分の課題に応じて運動を選ぶことができる環境をつくる。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">① タブレットでの毎時間の振り返り内容や授業内の発言から見取る。② 授業内での発言や、単元のまとめでの振り返り内容から見取る。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">① 振り返りで記述した内容から、動きや体の使い方を言語化することができた。② 映像資料を通じて児童が一連の動作内で課題と感ずる部分を考え、運動に取り組むことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・振り返りの内容が児童によって差がある。・自分に合った適切な練習の場を選ぶことに悩む児童がみられた	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・児童の振り返りの内容に教師が適切なアドバイスをしよう留意する。・児童の運動のレベルに応じて、活動しやすい場を児童と共に考える。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>自分がどのように体を動かしているのかを言語化し、周囲に伝えることができる児童</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学力調査の校内平均正答率は62.8%（基礎70.4%、活用45.8%）であり、目標値66.0%、全国平均正答率66.2%を下回っている。 ・「物語の内容を読み取る」の正答率77.8%に対して、「説明文の内容を読み取る」の正答率は44.4%とかなり低かった。論理的に読む力が低いと考えられる。 ・「調べたことをもとに文章を書く」の正答率が16.7%、「文章を書く」の正答率が41.7%と特に低かった。文章を書くことが苦手であり、指定された時間や条件で文章を書く力が高まっていない。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年5月実施の学力調査では、「話すこと・聞くこと」領域において、話し手に対して質問を考える問題で、正答は4人中1人だった。話し手の話に関心を持ち、内容に沿った質問をすることに課題がある。 ・漢字を書く問題で、4人中2人が、3問中1問のみ正答だった。漢字の書き取りに課題がある。 ・平仮名で書かれた文章の中から片仮名で書く語を答える問題では、正答は4人中2人だった。正答は「ドア」だが、誤答の2人は「新幹線」を片仮名で書くことと答えていた。片仮名で書く語の種類について理解が曖昧であること、また、読書経験や語彙の少なさも課題であると考えられる。 ・ひとまとまりの文章を箇条書きに直す問題で、正答は4人中2人だった。正答の2人についても、調査中に質問があった。問題文の意図を理解したり、順序立てて考えたりすることに課題がある。 ・4人中2人は最後まで問題を解くことができなかつたため、「書くこと」領域について学力調査の結果から分析することはできないが、普段の様子から、伝えたいことの中心が明らかになるように構成を考えて文章を書くことには課題がある。 ・「話すこと・聞くこと」領域と漢字の書き取りについては、第1・2学年の頃から課題として挙がっており、傾向は変わっていない。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を読み取る学習では、まず文章の構成や大意を捉え、大事な語句を抜き出したり要約したりするなどして要点を正しく理解できるよう指導する。 ・文章を書く学習では、書く前に構成メモを作成させたり必要に応じて文型を示したりして書くことへの抵抗を減らすとともに、個に応じた支援を行う。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>①文章を読み取る学習では、大事な語句を抜き出したり要約したりするなどして要点を正しく理解できるよう指導する。</p> <p>②文章を書く学習では、構成メモや文型を活用し、個に応じた支援を行う。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>①評価テストにより、思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p> <p>②求められてことに正対しているか、また、筋道立てて自分の考えをまとめることができているかについて、文章の内容を評価する。</p> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <p>①文章を読み取る学習では、大事な語句を抜き出したり要約したりするなどして要点を正しく理解できるよう指導する。</p> <p>②文章を書く学習では、構成メモや文型を活用し、個に応じた支援を行う。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①評価テストにより、思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p> <p>②求められてことに正対しているか、また、筋道立てて自分の考えをまとめることができているかについて、文章の内容を評価する。</p>
<p>＜方策＞</p> <p>①文章を読み取る学習では、大事な語句を抜き出したり要約したりするなどして要点を正しく理解できるよう指導する。</p> <p>②文章を書く学習では、構成メモや文型を活用し、個に応じた支援を行う。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①評価テストにより、思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p> <p>②求められてことに正対しているか、また、筋道立てて自分の考えをまとめることができているかについて、文章の内容を評価する。</p>		
<p>4. 検証結果（成果と課題）</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を読み取る力は、元々個人差が大きかったが、苦手としていた児童も音読の上達とともに理解が深まり、ほぼB基準には達するようになった。 ・文章を書く学習では、タブレット端末を活用することで推敲が容易になり、書くことへの抵抗感がなくなった。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長い文章を読むことへの抵抗感が強い児童がおり、意欲的に学習することが難しいことがある。 ・文章を一通り書いて満足してしまい、自分で書いた文章を読み返したり友達と読み合ったりして、文章をよりよくしようとする意識が低い。 	<p>5. 令和8年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ある程度長い文章を読んだり書いたりすることへの抵抗感をなくし、能動的に学習する態度を育成したい。そのために読書活動なども活用したい。 ・漢字の習得が苦手な児童は、練習による習熟や既習の漢字を使って文章を書く学習が必要であると思われる。 		
<p>6. 令和8年度（次学年）末に期待する児童の姿</p> <p>豊かな言語感覚を身に付け、文章の要旨を読み取ったり、自分の考えを表現したりすることができる児童</p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度の学力調査の校内平均正答率は61.1%（基礎60.8%，活用61.9%）であり，目標値65.2%，全国平均正答率66.1%を下回っている。・「ごみのしよりと利用」の正答率は60.0%，「先人の働き」の正答率は33.3%と目標との差が大きかった。自分たちの地域との違いもあるが，資料を読み取る力に課題があると見られる。・正答率の個人差が非常に大きかった。学習形態の工夫や個に応じた支援が必要である。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和5年度の学力調査において，第3学年社会科の調査は実施していない。・写真や地図などを読み取り，課題を見いだすことに課題がある。・身近な地域の学習に関して，地理的に学ぶことが難しいテーマが存在する。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・地図やグラフ，表などの資料を読み取る学習を丁寧に行い，資料活用の技能や基礎的な知識の定着を確実にする。・「ジグソー学習」などで調べたことを伝え合う学習を工夫し，「分かる」だけでなく「考えて表現する」ことを重視する。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none">①地図やグラフ，表などの資料を読み取る学習を丁寧に行い，資料活用の技能や基礎的な知識の定着を確実にする。②「ジグソー学習」などで調べたことを伝え合う学習を通して，自分の考えを表現できるようにする。	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none">①評価テストにより，知識・技能分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。②評価テストにより，思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none">・資料を読み取り，事象を理解することはある程度できており，どの児童もB基準以上の資料活用力を身に付けている。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none">・複数の資料を合わせて多面的に考察したり，自分で必要な資料を取集したりする能力は，まだ不十分であると感じる。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・複数の資料を収集・精選し，それらを活用して社会的事象の意味を考察する能力を育成したい。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>資料を効果的に活用し，社会的事象の意味を考え，表現する児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 算数科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度の学力調査の校内平均正答率は63.5%（基礎66.7%，活用55.6%）であり，目標値65.9%，全国平均正答率67.9%をやや下回っている。・「わり算・計算のきまり」の正答率が44.4%，「いろいろな形」が44.4%，「変わり方調べ」が50.0%となっており，目標値・全国平均を大きく下回っている。・「活用」や「思考・判断・表現」の正答率の個人差が大きく，結果的にクラスの数値を下げている。個に応じた支援が必要であることが分かった。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和5年5月実施の学力調査では，文章問題（求小の場面）で，正答が4人中1人だった。文章問題の場面を正しく読み取り，立式することに課題がある。・長方形の色紙を敷き詰めて正方形を作る場面で，作った四角形が正方形になる理由を記述する問題の正答が4人中1人だった。筋道を立てて考えること，そして考えたことを言葉や数や式を使って説明することに課題がある。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・既習事項や四則計算の復習を意図的に行い，知識・技能の定着を確実にする。・文章問題では図示するなどして題意の理解を確実にし，正しく立式することを重視する。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none">①習熟問題や既習事項の復習を重視し，知識・技能の定着を確実にする。②文章問題では図示するなどして題意の理解を確実にし，正しく立式できるように指導する。	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none">①評価テストにより，知識・技能分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。②評価テストにより，思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。
<p>4. 検証結果（成果と課題）</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none">・基礎基本の習熟に重点を置き，繰り返し問題に取り組むことで，知識・技能がかなり定着してきた。どの児童もB基準以上を達成し，苦手意識は軽減してきた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none">・文章問題や応用問題では，立式に迷うことがある児童もいる。・四則計算や小数・分数の計算の間違いもあり，更なる習熟が必要であると感じる。	<p>5. 令和8年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・新しい学習内容では，まず基礎基本の習熟を徹底する。・既習事項の振り返りを繰り返し行い，定着を確認する。・算数が得意・苦手の個人差が大きいため，個別最適な学習を取り入れる。
<p>6. 令和8年度（次学年）末に期待する児童の姿</p> <p>習得した知識・技能を活用して，正確に問題を解決する児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 理科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度の学力調査の校内平均正答率は51.7%（基礎55.0%、活用44.4%）であり、目標値61.7%、全国平均正答率59.5%をかなり下回っている。・「電気のはたらき」が22.2%、「月と星」が33.3%、「物の体積と温度」が44.4%、「水のすがた」が41.7%と特に正答率が低かった。「基礎」が55.0%で、目標値の68.5%に対してかなり低かった。・個人差が非常に大きく、正答率が低い児童は無答が多かった。時間内に問題に取り組む力が不足していた。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度から理科の学習を始めたばかりなので、科学的思考がまだ身に付いていない。・観察や実験に対する興味・関心は高いが、理由や根拠を探ろうとする意識が低い。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・基礎的な知識や技能を確実に身に付けているかを理解するために授業の導入や各単元の最後に振り返りを行い、復習を徹底する。・生活経験や既習内容を生かし自分の考えを言葉や図、資料等を使って表現させることによって、論理的に思考することを習慣化させ、表現力を高める。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①基礎的な知識や技能を身に付けられるように授業の導入での既習事項の確認、各単元の最後に復習の時間を設ける。②生活経験や既習内容を生かして自分の考えを書くことで論理的に思考することを習慣にする。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①評価テストにより、知識・技能分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。②評価テストにより、思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・知識・技能面では、直近に学習した内容はほぼ身につけており、B基準以上を達成している。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・実験結果から考察したことを表現することや既習事項と関連付けて論理的に考えることが苦手な児童がいる。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・実験の目的を明確にし、結果から考察することを通して、論理的に考えることや考えたことを表現することに重点を置いて指導したい。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>既習事項や生活経験を生かして、自然事象を論理的に考える児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 音楽科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">令和5年度1学期授業評価アンケートでは、「音楽科の授業が好きか」や「音楽科の授業は分かりやすいか」という項目に関して、全ての児童が肯定的な回答をしている。5学年の児童は総じて音楽に対する意欲、関心が高く、歌唱だけではなく器楽の表現についても意欲的に取り組むことができるが、楽しむことを重視するあまり、技能の向上についてはやや課題が残る。また、鑑賞の活動においては、自分の感じたことや考えたことを言語化することが苦手な児童が多い。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">最初の常時活動で様々な楽器や歌唱の仕方を実践し、音楽の面白さを体感できるようにしている。器楽は積極的に取り組める児童と消極的な児童と二極化してしまうことがあるので、苦手意識をもつことがないように、できていることを大いに褒め、発表する場を設け、「できる」ことを体感させていく。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">様々な種類の楽器を用いたアンサンブルの活動を通して、協働的に練習に取り組む習慣を作る。鑑賞の活動を通して、自分の思いや意図を言語化し、演奏に生かせるようにする。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>① スモールステップによるアンサンブル活動</p> <p>②鑑賞の活動では教科書と音源だけではなく、作曲家や楽曲に関する資料も配布する。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①毎時の小目標を提示し、達成度合いを検証する。</p> <p>②ワークシートの記述内容。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none">個々の演奏技能の向上が見られた。また、アンサンブルの活動を通して、お互い協力しながら協働的に課題に取り組むことができた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none">自身の演奏の振り返りや、鑑賞の課題に対して、思いや意図をきちんと言語化する力にはやや課題が残る。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">思いや意図をもって音楽を批評する能力を身につけるための工夫。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>自分の思いや意図を丁寧に表現できる児童</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 図画工作科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>活動の種類によって得意、不得意、好き、嫌いが明確に分かれており、興味のもてない題材や苦手な活動に対して消極的になりがちで取組の質に波がある点が課題である。活動を楽しむだけ、あるいは苦手をこなすだけで終わらせず、学んだことや身に付けたことを次につなげていけるように取組の質を向上させていくことが必要である。</p>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】授業への興味・関心は高いが、学習内容の確実な定着については、授業者と児童の認識に乖離があるため改善を図る必要がある。</p> <p>【改善策】造形活動そのものへの意欲が高く、すぐに活動を始めたが、造形遊びと絵や立体に表す活動では導入に変化をつけ、用具や材料の特性を踏まえて「なにができるか」や「なにをしたいか」を考えながら、自分らしく主題を設定して完成形のイメージをもちながら活動を進めていけるよう支援する。</p> <p>【評価】これまでの経験や知識、身に付けた技法を生かす場面が少しずつ増え、新たに発想したことを積極的に試しながら活動を楽しんでいる児童が多い。よりよい表現や活動の質の向上を目指して苦手意識を解消しながら取り組めるような指導の工夫を継続していく必要がある。</p> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>作品の相互鑑賞や振り返り活動の中で、自分の意図したことと実際に行った工夫を関連させながら言語化して他者に伝えることに力を入れ、表現の過程や結果を自分自身で整理して次につなげていけるようにしている。また、そのつながりが題材導入時に意識できるような言葉かけを行っている。</p>			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</p>
<p><方策></p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ自分らしく発想したことを基に、作品をより良くするための工夫を凝らすことができた。 ・与えられた時間に対して、早すぎたり遅すぎたりしないよう、それぞれが自分で考えながら調整することができた。 <p><課題></p> <p>絵や立体に表す活動や造形遊びの活動は楽しみながら取り組むが、鑑賞や活動の振り返り、まとめなどに取り組むときに消極的な様子が見られる児童が多いことが課題である。</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材の導入で目指すゴールと全体の流れを示したうえで、それぞれの進捗状況を見ながら、設定した時間に対して差が開きすぎないように、個別の声掛けとサポートを継続する。 ・作ったり描いたりする活動だけでなく、鑑賞の時間も楽しみながら、見方や感じ方を深め、活動のまとめや振り返りを充実させられるような取組の設定やワークシートの工夫を凝らす。 		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>作品制作以外の活動にも主体的に取り組む、活動の中で感じたことや考えたことを言語化できる児童</p>			

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 家庭科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

授業内での実習・実験等の体験的な活動の有無で興味関心に偏りが見られる。また授業題材によっては消極的に取り組み、「授業から学ぶ」のではなく「授業をこなす」という傾向が見られる点が課題である。全ての題材においての興味関心を高め、自身の生活と結び付けて考えを深めながら自分から進んで学ぼうとする意欲を向上させていく必要がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・令和5年度未実施のため該当項目なし。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・実習や実験などの体験的な活動を多く取り入れられるように工夫し、動画などの視覚教材を活用しながら理解を深められるようにしている。
- ・自身の生活について振り返る機会を設けたり、実習や実験などの体験的な活動を通して学んだことを家庭で生かせるように記録課題を設定したりしている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①視覚教材を活用したり、実習や実験等の体験的な活動を多く取り入れたりする授業構築を行う。
- ②授業内での困り感を払拭する声掛けと個に応じた適切な支援。

＜検証方法＞

- ①授業評価アンケート，毎授業の振り返り。
- ②授業評価アンケート，ワークシート，毎授業の振り返り，題材毎の単元テスト。実習や製作の記録課題。

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

- ・体験的な活動をととして、題材への学びを深めながら知識を定着させることができた。

＜課題＞

- ・実習や実験等の体験的な授業では、積極的に楽しみながら取り組むことができるが、自分の考えをまとめたり、授業を振り返ったりする際に消極的に取り組む児童が多い。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・全ての題材において体験的な活動を取り入れながら振り返りやまとめをスムーズに言語化，表現できるように声掛けや個に応じた指導を継続していく。
- ・より題材への理解を深めるために，導入で実生活の振り返る時間を設ける。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿

全ての題材において主体的に取り組み，自分の考えやまとめを表現できる児童

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">令和5年度1学期授業評価アンケートでは、「体育科の授業が好きか」や「体育科の授業は分かりやすいか」という項目に関して、全ての児童が肯定的な回答をしている。自分たちでルールを工夫したり、自分やチームの特徴をとらえて作戦を立てたりすることを上級生に頼ってしまうことに課題がある。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">令和5年度6月実施の体力テストにおいては、高い記録を示している児童がいる一方で、「ソフトボール投げ」等で記録が伸びていない児童もいた。このことから、児童によって身に付いている技能に開きがあることが分かった。 <p>→分かりやすい技能のポイントを複数用意し、自分に合ったものを選択できるようにする。また、ICT機器を活用し、児童が自分自身の動きを視覚的に確認して改善につなげることができるようにする。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">技能ポイントやルールをモニターに映し出し、視覚的に体感できるようにしている。選択肢を用意したり少し道筋を見せたりして、考えるきっかけを作っている。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①年間2回授業評価アンケートを実施する。②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">ルールやポイントを可視化したことで、「ここを直せばいいんだ」という思考が生まれ、苦手な動きを「工夫」で補うことができるようになった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">「今の自分にはこれが必要だ」という判断をするのが難しく、やりたい練習を選んで取り組んでしまう。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">児童の運動を楽しむ原動力を維持し、技能向上を目指すための「やりたい」と「必要」のギャップを埋める指導
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>自己の技能を高め、児童が互いにはげまし高め合えるような思考力・判断力・表現力を育む児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 外国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">教科書で学習した単語や定型的なフレーズの理解や聞き取りは良好であるが、スモールトークやALTとのやり取りにおいて「What～?」「Who～?」「Why～?」などと聞かれた際に、上手く会話することが苦手である。自分の思いや考えを伝える際に、I'm～.やIt's～.を付け忘れて単語で発言する様子が見られる。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">該当項目なし。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">ALTと協力し、ジェスチャーをしたり、他の言い方で伝えたりしながら、児童に取り組んでほしいことを英語で理解できるようにする。児童が単語で自分の思いや考えを伝えようとした際に、I～.I'm～.などの言葉を付け加えて児童が復唱するように促す。アルファベットや重要語句をワークシートに書く活動を取り入れている。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none">①ねらいとするフレーズを使った2～3往復の短い対話を毎回の授業で行い、必要に応じて言い直しなどの支援を行う。②アルファベットや重要語句をワークシートに練習する活動を取り入れる。	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none">①授業の中で、ALTや教師、友達との対話の様子を観察する。パフォーマンステストで、学習した単語やフレーズを組み合わせで表現できているか評価する。②ワークシートや評価テストで、アルファベットや重要語句が正しく書けているか確認する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none">直近に学習した短いフレーズの対話を、教師や友達と行うことができている。アルファベットの読み書きは、ほぼ定着している。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none">単語だけの受け答えになることや既習のフレーズを活用できない児童もいる。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">新しく学習する内容については、繰り返し発音練習をして自信をもたせ、英語で短い対話を楽しんで行えるようにする。5年生ではあまり行わなかった書く学習にも取り組む。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>身に付けた語彙や表現を活用して英語のコミュニケーションを楽しむ児童</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学力調査の校内平均正答率は57.1%（基礎67.6%, 活用33.3%）であり、目標値65.6%, 全国平均正答率66.4%を下回っている。 ・「漢字を読む」の正答率が100%であるのに対し、「漢字を書く」の正答率は61.1%、「言葉の学習」の正答率は46.7%であった。1人1台タブレット端末導入による文字を書く機会の減少が影響していることが考えられる。 ・「文章を書く」の正答率が0%であった。昨年度29.2%であったが数値が低下した。40分の時間配分、指定された条件の作文を短時間で書く力が高まっていない。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の学力調査の結果は、全国平均を若干下回っており、特に「文章を書く」の問題では全国平均57.0%に対し、正答が得られなかった。テスト全体を通して回答する際の時間配分が影響している可能性もある。回答の手順をあらかじめ伝えることも検討したい。令和4年度の学力調査における「文章を書く」の結果は、平均正答率20.8%, 全国平均57.0%であることから、あまり改善されていないことが分かる。このことから、特に「文章を書く」ための力を付けることが、国語における課題である。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章いきなり「書き始める」のではなく、書く前に「構成メモ」を作成することを徹底している。 ・文章の型を示し、必要に応じて使うよう声かけをしている。 ・語彙の量を増やすために、日頃のノート指導で既習の漢字を使って書くように指導している。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①文章を書く際には、教科書の例示などをもとに「構成メモづくり」「文章の型を使った作文」を徹底していく。 ②日頃のノート指導で、既習漢字を使うことができているかを確認する。 	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①問われていることに正対しているか、また、筋道立てて自分の考えをまとめることができているかについて、文章の内容を確認する。 ②漢字20問小テストを金曜日のベーシックタイムに行い、全員が80点以上取れているか確認する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①構成メモを書くことで文章を論理的に書くことができた。 ②漢字20問小テストで学級平均90点を年間通して超えることができた。既習の漢字を使って文章を書くことが多くなった。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①構成メモを書く際に、材料集めで時間をかける児童が多かった。 ②漢字を使って書くことができるが、画数に過不足があるなど曖昧に漢字を覚えている児童が多かった。 	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成メモを書く際には、材料の例示も多く用意して1から考えるだけでなく、選択して考えを書けるような手立てを打つようにする。 ・ベーシックタイムに漢字の小テストを実施し、繰り返し漢字を書く機会を設ける。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>構成メモを充実させ、個性ある文章を書くことができる児童 漢字を正しく暗記し、日常で使うことができる児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度の学力調査の校内平均正答率は64.5%（基礎64.9%、活用63.0%）であり、目標値67.5%、全国平均正答率69.2%を下回っている。・「世界の中の国土」の正答率は50%であった。特に赤道、大西洋の位置に関する問題で無回答の児童がおり、知識の定着に関する学級での取組が不十分であることが分かった。・日本の貿易の変化について資料をもとに表現する問題では、正答率が17.4%とかなり低く、資料から考え表現する力に課題があることが分かった。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和5年度の学力調査の結果は、全国平均をやや下回る結果となった。前学年で学習した「市の様子の変り変わり」（全国平均52.4%に対し平均正答率5.6%）に大きな課題が見られた。問題を分析すると、駅舎の時代による変遷、交通網の時代による変遷、自治体の合併による人口増加の変遷という本校児童にとって実生活を通じての感覚が乏しい分野が苦手であることが分かった。実生活から見えない状況を想像することは難しく、教科書だけでは、知識や技能は定着しないということが課題である。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・1人1台端末を生かして授業スライドを児童に共有し、資料から情報を読み取ることに重きを置いている。・教科書だけでなく、副教材の資料集も活用して視覚的に情報を記憶できるように工夫している。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none">①教科書の写真を見るだけでなく、動画を活用して知識を定着できるようにする。②授業で学んだキーワードを使って、振り返りを書く活動を可能な限り毎時間を行う。	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none">①単元テストにより、知識・技能分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。②単元テストにより、思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。
<p>4. 検証結果（成果と課題）</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none">①単元テスト（知識・技能）では、A評価（90点以上）の児童が4名、B評価（正答率70点以上）が2名であった。②単元テスト（思考・判断・表現）では、A評価（正答率90点以上）の児童が5名、C評価（70点未満）が1名であった。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none">②C評価の児童については、小さい枠に情報が密集している問題について整理して考えることが難しいという課題が見られた。	<p>5. 令和8年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・たくさんの情報の中から取捨選択することができるように、キーワードに線を引くなどの手立てを示す。
<p>6. 令和8年度（次学年）末に期待する児童の姿</p> <p>多くの情報の中から、情報を取捨選択できる手立てを理解している児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 算数科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度の学力調査の校内平均正答率は53.1%（基礎63.2%、活用22.9%）であり、目標値62.3%、全国平均正答率60.9%を下回っている。・内容別に見ると「分数と小数」の正答率が50.0%、「円グラフや帯グラフ・平均」が33.3%となっており、目標値・全国平均を大きく下回っている。中でも記述式の問題で無答が目立っており、自分の考えを説明する力が不十分であることが分かった。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・該当項目なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・分数で表すことの良さを児童と確認し、既習事項を授業前に掲示物でおさえる。・グラフ問題だけでなく、数直線など用いた際にも単位や数値、めもりの間隔にこだわりながらノート指導を行っている。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①単元内のキーワードや授業な考え方は紙に書き、教室掲示していつでも復習できるようにする。②数直線などを用いた際に、単位や数値、めもりの感覚にこだわって自分の考えを書くように指導する。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①単元テストにより、知識・技能分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。②式を数直線で表す活動を行った際には、毎回めもりの間隔を重点的に確認する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">①単元テストでは、知識・技能分野のA評価（正答率90点以上）が5名、B評価（正答率70%以上）が1名であった。②特に割合などの問題では、数直線を使用して式を作る過程を重点的に指導することができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">②テストになると、時間に追われることで数直線を用いずに問題に取り掛かる児童がいる。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・公式を覚えるだけでなく、どうして公式が成り立つのかを説明できるようにする。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>様々な問題に取り組めるように、公式を暗記するだけでなく、どうして公式が成り立つのかを考える過程を大切にすることができる児童</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 理科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学力調査の校内平均正答率は60.0%（基礎57.9%，活用63.6%）であり，目標値65.0%，全国平均正答率65.7%を下回っている。 ・「人のたんじょう」の正答率は58.3%であった。子宮や受精の知識に関する問題で誤答する児童が見られ，知識の定着に関する学級での取組が不十分であることが分かった。 ・「ふりこのきまり」の正答率は38.9%とかなり低かった。特に「ふりこを用いた対照実験を計画する」問題の正答率が33.3%であり，実験計画を自分たちで考えて必要感をもって実験する経験が少ないことが分かった。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「太陽と地面のようす」の記述問題（校内平均正答率0% 全国平均正答率16.4%），「電気の通り道」の記述問題（校内平均正答率0% 全国平均正答率18.4%）に課題が見られた。学習した知識を使って論理的に思考し，自分の考えを簡潔に分かりやすく表現する力を高めることが，今後の課題である。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識や技能を確実に身に付けているかを理解するために授業の導入や各単元の最後に振り返りを行い，復習を徹底する。 ・生活経験や既習内容を生かし自分の考えを言葉や図，資料などを使って表現させることによって，論理的に思考することを習慣化させ，表現力を高める。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①基礎的な知識や技能を身に付けられるように授業の導入での既習事項の確認，各単元の最後に復習の時間を設ける。 ②生活経験や既習内容を生かして自分の考えを書くことで論理的に思考することを習慣にする。 	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①単元テストにより，知識・技能分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。 ②単元テストにより，思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ①単元テストでは，知識・技能分野のA評価（正答率90点以上）が5名，B評価（正答率70%以上）が1名であった。 ②単元テスト（思考・判断・表現）では，A評価（正答率90点以上）の児童が4名，B評価（正答率70点以上）が2名であった。 <p><課題></p> <p>特記なし</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き基礎的な知識・技能を身に付けられるように導入での既習事項の確認，各単元の最後に復習の時間を設ける。 ・引き続き生活経験や既習内容を生かして自分の考えを書くことで論理的に思考することを習慣にする。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>実験計画を自分たちで考えて必要感をもって実験することができる児童</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 音楽科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">令和7年度の1学期授業評価アンケートでは、「音楽科の授業が好き」「音楽科の授業は分かりやすい」という項目に関して、ほとんどの児童が肯定的な回答である。一方で授業内容の理解度や取り組み方についてはやや課題が残り「できるようになるまでのプロセス」を丁寧かつきめ細かく指導していく必要がある。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">器楽分野に課題があり、上手く出来なくてもよいので諦めずに最後まで取り組むことに重点を置いていた。しかし、今年度は音楽的な感性を働かせ、楽器の特徴を生かした音色で演奏できるよう器楽分野をさらに発展させていく。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">ソプラノリコーダーの活動において、ワークシートによる自己評価を実施した。また、少人数クラスを活かした個人レッスン形式で「良い音色とは何か」といった手本を示し、それに向けた具体的な練習方法を提示する。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①自己評価シート②個人レッスン	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①記入内容から、学習内容の理解度を確認する。②中間発表、まとめの発表を通してどれだけ技能が向上したかを確認する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">歌唱及び器楽の両面において、個々の技能の向上が見られ、お互いに協力しながらアンサンブルを作ることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">難易度の高い課題に対して、高いモチベーションをもつことができず、取り組みまでに時間がかかることがある。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">課題の取組について、ゴールを明確に示し、それに向けたきめ細かい指導及び支援
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>自分に自信をもち、多くの課題に前向き、かつ主体的に取り組める児童</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 図画工作科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

多くの児童が造形遊びや表現の活動そのものを楽しんでいるが、題材の趣旨を理解しきれていないまま、自分のやりたい遊びに終始してしまう場面があることが課題。また、自分のイメージに技能が追いつかないことで落胆してしまったり活動に消極的になってしまったりする児童も少なくないため、造形遊びと絵や立体に表す活動で変化をつけるなど授業の組み立てを工夫していく必要がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

【課題】 自分が何をどのようにすればよいのか分からず、なかなか制作を始められない児童がいる点が課題である。また、小学校入学前までに習得した既成概念が影響しているのか、いわゆる「可愛い絵」や「カッコいい形」をまねる傾向があり、独自性を追求する作品がなかなか見られない点が課題である

【改善策】 授業の導入で本時のめあてを提示し、教科書の該当箇所を全員で確認することで、制作方法や作品例を知り、円滑に制作を始められるようにする。制作過程において一人一人の作品の良い点を具体的に褒めることで、独自性を追求する作品制作をできるようにする。

【評価】 図画工作の授業が始まるという時点で気持ちの高揚があるため、導入時にめあてを理解したり必要な説明を聞いたりすることが難しい児童がいる。楽しみな気持ちや湧きあがったイメージを尊重しながらも、めあてを意識できるような導入時の言葉かけや板書の工夫、授業の組み立てを継続していく必要がある。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

授業の始めに授業の流れとめあてを示して確認することを徹底し、授業終わりの振り返りをワークシートに記入して自分の取り組みを思い出しながら、次回に向けてやるべきことや考えていることを言語化してまとめることを習慣化できるようにしている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①年間2回授業評価アンケートを実施する。
- ②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。

＜検証方法＞

- ①年間2回の授業評価アンケートを実施し、内容を分析する。
- ②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

これまで身に付けた知識や技能を活かして作品制作に取り組むことができた。

＜課題＞

制作活動そのものを楽しむ姿は見られるが、見通しをもって取り組むことや、発想したことを形にするために創意工夫を凝らすことが苦手な児童が多い。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・図画工作から美術への切り替えにおいて、延長上にあるが取組の質や学びに向かう姿勢については着実にステップアップしていくことを理解できるような導入を行い、評価基準を明確に示すこと。
- ・題材の目標やゴールだけでなく細分化したステップを示して、ただ楽しむだけではなく知識や技能を習得しながら課題を解決していくことを経験できるようにする。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿

できないときにどうすればできるようになるか主体的に考えながら創意工夫を凝らすことができる児童

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 家庭科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

基礎的な知識が定着している児童は多いが、それを活用したり、自身の考えや作品に表現したりすることに対しては課題が見られる。また、題材に関して自身の生活と結び付けて考えながら内容を深めたり、振り返ったりする意欲を高めていく必要がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・令和5年度未実施のため該当項目なし。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・実習・実験などの体験的な活動を多く取り入れられるように工夫し、既習事項を活用する機会を増やしている。
- ・実習や製作の記録、毎授業の振り返りなどで授業内容を深め、自身の生活を振り返りながら考えられるような時間を設けている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①既習事項を活用することを意識させる声かけと個に応じた適切な支援を行う。
- ②知識を活用しながら自ら考え、表現する機会を増やした授業の構築を行う。

＜検証方法＞

- ①実習や製作の記録課題、ワークシート、題材毎の単元テスト。
- ②実習や製作の記録課題、ワークシート、授業の振り返り。

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

授業内容について既習事項を用いて振り返ったり、実習等の体験的な活動の際にこれまで身に付けた技能を発揮したりする児童が増えた。

＜課題＞

課題解決に向けて一生懸命取り組む姿は見られるが、主体的に考えて行動する児童が少ない。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・引き続き知識を活用しながら自ら考え、表現することを意識しながら授業の構築や課題を設定する。
- ・小学校での内容を振り返りながら、実生活と結び付けて考えられるような工夫を授業に取り入れ、中学校家庭科の学びを深めていく。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿

実生活と結び付けながら考えて既習事項を活用し、自力で課題解決に取り組むことができる児童

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">令和7年度の1学期授業評価アンケートでは、「体育科の授業が好き」「体育科の授業は分かりやすい」という項目に関して、全児童が肯定的な回答をしている。技能のポイントを理解して言葉で説明したり技能習得に向けて繰り返し練習に取り組んだりすることができるが、理解から実践（試合形式）へつなげることが課題である。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">体力テストにおいて、良好な記録の児童と記録が伸びていない児童が混在しており、児童によって体力差や技能に幅があると言える。 <p>→動画教材、タブレット端末で撮影した自身の姿などを視聴し、要点を理解する。また、児童同士のアドバイスを踏まえた上で実技に取り組ませる。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">短い合図やキーワードを使って、練習で身に付けた動きと結びついていることを実感させる。技能ポイントやルールをモニターに映し出し、視覚的に体感できるようにしている。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①年間2回授業評価アンケートを実施する。②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p>技能習得に向けた練習で、自己修正ができるようになった。中学以降の体育分野や運動部活動等に直結する「自律した学習能力」が身についた。</p> <p><課題></p> <p>モニターやタブレットではわかっているのに、身体がついてこないといった葛藤が生じる場面が多かった。「できない」というような停滞ではなく「分析中」であるとし、「課題を発見できたこと」自体を評価するよう声かけを行った。</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">成功した瞬間の感覚(手応えやタイミング)を言語化できるようにする。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>自己の技能を高め、児童が互いにはげまし高め合えるような思考力・判断力・表現力を育む児童</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 外国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書で学習した単語やフレーズの聞き取りは良好であるが、Small talkにおいて「What～？」や「Who～？」、「Why～？」などと聞かれた際に、何を問われているのかがかつかめないことがある。 A L Tに対して自分の思いや考えを伝える際に、I ～. I'm～. を付け忘れて単語で発言する様子が見られる。 基礎的な単語の読み書きに課題がある。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当項目なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> A L Tと協力し、ジェスチャーをしたり、他の言い方で伝えたりしながら、児童に取り組んでほしいことを英語で理解できるようにする。 児童が単語で自分の思いや考えを伝えようとした際に、I ～. I'm～. などの言葉を付け加えて児童が復唱するように促す。 アルファベットや重要語句をワークシートに書く活動を取り入れている。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <ol style="list-style-type: none"> ねらいとするフレーズを使った2～3往復の短い会話を毎回の授業で取り入れる。 単元の終わりや学期末にパフォーマンステストを行い、表現力向上を図る。 アルファベットや重要語句をワークシートに練習する活動を取り入れる。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 授業の中で、A L Tや教師、友達との1対1の会話の様子を観察する。 パフォーマンステストで、学習した単語やフレーズを組み合わせて自分のことを表現できているか確認する。 ワークシートや単元テストで、アルファベットや重要語句が正しく書けているか確認する。 </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <ol style="list-style-type: none"> ねらいとするフレーズを使った2～3往復の短い会話を毎回の授業で取り入れる。 単元の終わりや学期末にパフォーマンステストを行い、表現力向上を図る。 アルファベットや重要語句をワークシートに練習する活動を取り入れる。 	<p><検証方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 授業の中で、A L Tや教師、友達との1対1の会話の様子を観察する。 パフォーマンステストで、学習した単語やフレーズを組み合わせて自分のことを表現できているか確認する。 ワークシートや単元テストで、アルファベットや重要語句が正しく書けているか確認する。
<p><方策></p> <ol style="list-style-type: none"> ねらいとするフレーズを使った2～3往復の短い会話を毎回の授業で取り入れる。 単元の終わりや学期末にパフォーマンステストを行い、表現力向上を図る。 アルファベットや重要語句をワークシートに練習する活動を取り入れる。 	<p><検証方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 授業の中で、A L Tや教師、友達との1対1の会話の様子を観察する。 パフォーマンステストで、学習した単語やフレーズを組み合わせて自分のことを表現できているか確認する。 ワークシートや単元テストで、アルファベットや重要語句が正しく書けているか確認する。 		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ol style="list-style-type: none"> 授業の中で、A L Tや教師、友達との1対1の会話の様子からフレーズを使って応答することができた。 パフォーマンステストで、学習した単語やフレーズを組み合わせて自分のことを表現できていた。 ワークシートや単元テストで、アルファベットや重要語句が正しく書けていた。 <p><課題></p> <p>特記なし</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 単語だけでなく、文章で応答できるように日々の授業で指導していく。 単語の綴りを覚られるように、反復練習を行っていく。 		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>I ～. I'm～. など文章として相手に意見を伝えることができる児童</p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・村学力調査の問題内容では、「文章を書く」の目標値 55%に対して、校内正答率 25%だった。・村学力調査の問題内容では、「文法・語句に関する事項」の目標値 51.7%に対して、校内正答率 33.3%だった。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・「漢字を書く」「言葉の学習」「文章を書く」項目で全校平均正答率を下回っている。このことから既習事項の漢字や言葉の習熟が不十分であることが分かった。また、「文章を書く」問題については、指定された条件の作文を短時間で書く活動が不十分であったと考える。・「文法・語句に関する事項」については、令和5年度に当該の授業改善推進プランが作成されていない。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・たくさんの文章に触れさせ、真似させている。時間を設定して書く時間をたくさん作り、書くことに慣れさせる。・推敲させた文章を添削し、間違いを自分自身で直させている。日常生活での活用方法を教え、今後の生活に生かせるように学ばせる。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①作文を書く活動を計画的に実施し、良い作文を真似させ、型をつくっていく。②辞書をこまめに引かせ、正しい言葉を使わせる。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①定期テストや授業内の作文で正しく書けているか確認する。②授業プリント等で確認する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">①作文を繰り返し書くことで作文の型ができた。②辞書を引き、言葉を正しく使うことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">①どの作文も似たような文章になることがあるので応用することが課題である。②文にあった正しい意味を読み取れないときがあるのが課題である。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・言葉の意味、使い方など正しく覚えられるように指導する。・本を読む機会を設定し、考え方を深める。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>国語に興味をもち、言葉を大切に使える生徒。 積極的に読書をして様々なことを知識として蓄えていける生徒になっている生徒。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 社会科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>・ 基本的知識の習得 ・ 知識を活用した表現力の向上</p> <p>例1 全国平均より少し下回っている。特に「我が国の歴史」の領域が大きく下回っているため、課題があるといえる。(令和7年度 村学力調査の結果 参照)</p> <p>例2 令和7年度本校1学年対象教科アンケート 「この教科の学習内容について、現在どの程度理解をしていますか」 ⇒ 「あてはまる」「だいたいあてはまる」 100% (2名中 2名)</p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【現状と課題】</p> <p>複数の資料をもとに判断する問題で誤答を選択した児童が多かった。図や絵の資料ではなく、文章で書かれた資料の読み取りに課題がある。</p> <p>→ この結果に対して、まずは基本的知識の習得を目指し、それを用いた表現力の向上を図っていく。</p> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>社会科として重要視している、多面的・多角的な深い学びを得られる授業構成により、表現力を伸長させていく。(この表現力を『できる』力と定義する) 以下、方策に記す。</p>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①小单元ごとに複数の資料を活用し、多面的・多角的な感性と表現力を育成するパフォーマンス課題を設定する。また都度適切なサポートを実施する。</p> <p>②後期授業評価アンケートを実施する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①課題の評価(第二観点 A~C以下)について、全課題・全生徒の評価平均の結果分析(目標値は平均値B以上)</p> <p>②後期授業評価アンケートの結果分析(目標値は、理解度A【あてはまる】 B【だいたいあてはまる】100%)</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>成果 ①目標値を上回ることができた。 ②理解度A100%</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>多角的視点から学びを得るために、授業内における意見共有の機会を増やしていく。</p>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>社会科への関心がさらに高まり、自ら社会的事象に興味を抱くことで、地域の課題に目が向けられるようになっている生徒</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 数学科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>1年生の数学を見ると、全国平均よりも上回っている。特に活用の問題では大きく上回っているものの基礎的な内容で平均を下回っている。良好な状況であるが、データの活用の領域に関しては、特にグラフの読み取りに関して課題があるため、他の得意領域とバランスを取りながら取り組む必要がある。</p>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学力調査の学級平均正答率は67.5%（基礎73.3%，活用56.4%）と目標値（64.8%），全国平均正答率（67.1）より高い。 ・小数と分数の問題の正答率が低かった。数直線を使用した数の理解が不十分であることが分かった。 ・わり算・計算のきまりに関する問題にも課題が見られた。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「文字と式」の単元において、自力解決で行う問題演習の前に、クイズ形式での理解を促す計算トレーニング。 ・1次方程式の単元において、ホワイトボードやICT機器を使用した教え合い活動。 ・ICT機器（関数グラフソフト GRAPES）を活用したグラフの読み取り・作成。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していくことで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①小テスト 実施前と後に行い、定着度を確認する。</p> <p>②ICT機器を用いた発表 発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していくことで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①小テスト 実施前と後に行い、定着度を確認する。</p> <p>②ICT機器を用いた発表 発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。</p>
<p><方策></p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していくことで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①小テスト 実施前と後に行い、定着度を確認する。</p> <p>②ICT機器を用いた発表 発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果>主体的に取り組み、発表などでも具体的にアウトプットできた。</p> <p><課題>用語などの計算でない部分での理解が足りないことが課題である。</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>知識の定着を定期的に行う。</p>		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>基礎的な知識を正しく使用して発展的な内容に取り組める生徒。</p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 理科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

令和7年度村学力調査結果より、次のことが挙げられる。

- ・「食物連鎖」の正答率は0%であった。また「植物のつくりとはたらき」の正答率は50%を下回った。どちらも生物分野における基礎知識の定着が課題である。
- ・表から数値を読み取る問いに関しては、課題が見られる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・実験の結果を根拠として説明できていないことが、誤答分析から明らかになった。学習した知識を使って論理的に思考し、自分の考えを簡潔に分かりやすく表現する力を高めることが、今後の課題である。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・タブレット端末を活用しモデル実験や図、映像資料を使い、主体的に考える学習活動を充実させる。
- ・小テストの活用や授業内容をこまめに振り返ることで「知識・技能」の定着を図る。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①個々の能力に応じた復習問題を補充するためにタブレット端末を活用した学習活動を充実させる。
- ②小テストの活用や授業内容をこまめに振り返ることで「知識・技能」を定着させる。

<検証方法>

- ①ICTを用いた発表の評価と年間2回の授業評価アンケートの実施内容を分析する。
- ②年間15回程度の小テストと年間4回の定期考査を実施し、内容を分析する。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

- ・実験の結果を根拠として説明、科学的用語を用いて自分の考えを表現できる生徒が増えた。
- ・小テストや定期考査の結果から、思考・応用する問題の正答率を高めることができた。

<課題>

- ・知識を身に付けることができたが、発表など周囲に向けて表現が難しいと感じられた。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

周囲との話し合い活動や発表を通して、身に付けた知識を活用できるような場面を設定し指導する。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿

理解していることを活用して、表現できる生徒。

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 音楽科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・授業アンケートの結果から、ほとんどの項目について「A」が付いているが、学習の理解度と、グループ活動の充実については「B」という結果だった。このことから、個人レッスン、全体指導、グループワークのバランスをもう一度見直し、題材や生徒の実態に合わせた適切なアプローチについて再考する必要がある。また「できる」を体感させるために、スモールステップの学習及び評価に加え、学習目標をより明確にし「良い演奏とは何か」をきちんと提示していく。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

・「歌唱分野」における「声量」の課題について。基礎的な発声法や変声期における喉のコントロールなど、技術面を中心に個人レッスン形式と全体指導を織り交ぜながら指導をしている。徐々にではあるが、個々の得意な音域内において、のびやかな歌声を出せるようになってきている。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・学習活動には前向きに取り組む姿勢が見られるが、表現活動において自信の無さが見られる。特に今年度新しく始めたクラシックギターの活動で顕著に見られるため、1の課題で述べた通り、適宜スモールステップの学習と評価を行う。また演奏発表では個別の演奏だけではなく複数人によるアンサンブルを通して、演奏に対する自信をつけさせていく。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①個別指導の充実
- ②活動の振り返り
- ③期末考査の分析を行う。

<検証方法>

- ①良い点、課題を明確にし、次に目指すべき目標を明確に提示する。
- ②授業観察やワークシートの記述等から、授業内容をふり返り、次時に生かす。
- ③期末考査の分析を実施し、授業改善に生かす。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

・歌唱及び器楽の技能が大きく向上し、鑑賞課題においても主体的に自分の考えを記述できるようになった。

<課題>

・変声期による声質の変化もあり、歌唱の音程及び声量面において課題が残る。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

・更なる表現力の向上に向けた専門的な技術指導及び支援。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿

習得した技能を生かし、思いや意図をもって音楽表現ができる生徒。

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 美術科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>自ら主題を生み出したり自分らしい表現を見付けたりすることができる生徒ばかりだが、表現したいことを実現するための技能の習得と向上に苦戦する場面が多いことが課題。知識や技能の地道な習得と、自身の意欲や主体性によって積み重ねたことが成果として表れ、生徒自身が成長を実感できるような授業づくりをしていく必要がある。</p>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】</p> <p>授業への興味・関心が高く学習内容も定着していると考えられるが、個々の能力差があり、時間配分への意識が弱い面が見られるので授業者側の働きかけに工夫が必要である。</p> <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習内容や経験、技能等を総合的に生かしたり、材料や技法を組み合わせたりするなどして応用的な活動に取り組む授業を行う。 ・タブレット端末を活用して活動や作品の記録、まとめ、発表、振り返りを行うことで自分の活動や制作の進捗をメタ認知しながら、よりよい表現活動につなげる授業の構成を継続する。 <p>【評価】</p> <p>生徒自身が得意と不得意を自認しながら、これまでの経験や既習事項をどのように生かすか、また自分が新たに身に付けるべき知識や技能は何かを主体的に考え行動しようとする姿勢が見られ、自ら能力を伸ばしながら与えられた時間内に課題を解決しようとする意識づけができています。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>題材ごとの導入を丁寧に行い、スモールステップの設定と毎時の目標を細分化している。また、振り返りワークシートを用いて目標の達成に対する自己評価を行い、次回の自分に向けての覚え書きを残すなど、主体的に取り組みを継続できるようフィードバックも充実させながらルーティンを作っている。また、アイデアの共有や中間発表での意見交換など、協働的な学びの場を設定している。</p>			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</p> <p>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</p> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</p> <p>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</p>
<p>＜方策＞</p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</p> <p>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <p>やるべきことがわかる状況では、課題解決のための各ステップを着実に遂行することができた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>自分らしく発想したり構想したりする場面では、そのために何をすればよいか分らず、停滞する様子が見られたことが課題。過去の参考作品等優れたものを見る機会は確保したが、同級生と制作する過程を相互に見合う機会はほとんどなかったことが原因ではないかと考える。</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>発想を広げたり構想を練ったりするためのマッピングやチャートなどの活用方法を実践し、今後自ら活用できるようにする。</p> <p>参考資料として、完成作品だけでなく制作過程の記録を詳細に示して、同じ学年の生徒がどのようなプロセスで制作したのか読み取れるようにし、つまづいたところや思考の転換があったところなどアイデアがアップデートされる過程を見て学ぶ機会を設ける。</p>		
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>自身の経験や背景を基に、自分らしさを生かした発想や構想を主体的に創出できる生徒。</p>			

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 保健体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>授業評価アンケートの結果より、「教科の関心を高められているか」、「内容を理解しているか」という質問に対して全生徒が肯定的にとらえている。また、「どのような力を身に付けたいか」という質問に対して、授業での学びを実生活で活かす力を付けたいという回答があった。取り組んでいる単元からその運動の特性を捉えさせるだけではなく、体力要素を兼ねた説明を加えて、自分の実生活に合った取り組みを選択できるようにしたい。</p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストでは、握力とボール投げに課題が見られた。また、全体の平均値は全国平均を上回るものが多いが、個人差が大きいことにも留意する。 <p>→タブレットで動画を撮影するなど、自分の動きを客観的にとらえられるようにする。よい動きは全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の観察から、運動課題への不安が強いと取り組むまでに時間がかかることもある。苦手な児童ほど試行回数が減り、成長速度が遅れてしまうことが課題である。 <p>→個々の体力や技能に応じた課題やルールを設定し、運動の特性に応じた楽しさを味わいながら、活動することができるようにしている。</p> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技能の習得に繋がる補強運動を設定し、単元に応じた技能の習得を目指す。 ・補強運動や学習内容を自分の目的に合わせて選択できるようにして、主体的な取り組みを促す。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施をする。 ②単元の全体像や学ぶ内容の重要事項やポイント、前時との関係性がわかるように板書やワークシート、スライドを活用する。 	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②スプレッドシートで授業内容の理解度を確認・分析。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <p>単元の全体像と『わかる』を事前に明示したことで、生徒が活動の目的を正しく理解し、迷う時間を削減できた。その結果、効果的な運動時間の確保と、ポイントを押さえた質の高い練習の両立が可能となり『できる』を体感させることができた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>「何ができないか」はわかっているが、「なぜできないか」という原因分析の精度を上げる必要がある。</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>スプレッドシートやワークシートの分析に他者の視点を介在させ、自分の主観と他者から見えた客観的なズレを認識できるようにする。</p>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>分析の質を深められる生徒。</p>	

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 技術科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・学習における課題設定と、振り返りを習慣化させることが求められる。・実践的・体験的な学習活動では、全ての生徒が意図的に取り組んでいるが、知識・技能の習熟で生徒に適した指導を行う必要がある。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容(別学年の中1内容記載)</p> <ul style="list-style-type: none">・学習振り返りシートを用意し、毎時間の授業の振り返りを家庭でできるようにする。・ノート、ワークシート、事前学習プリントを用いて知識の定着を図る。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・学習振り返りシートを用意し、毎時間の授業の振り返りに教師がコメントを返し、授業の理解度を深める。・ノート、ワークシート、事前学習プリントを用いて知識・技能の定着を図る。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①学習の理解度が本人にフィードバックされるように振り返りシートに記入させ、適切な支援を行う。</p> <p>②ノートやワークシートで課題に気づき、解決できる能力を身に付けられるようにする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①課題, 考査, 授業評価アンケート</p> <p>②課題, 考査, 授業評価アンケート</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・振り返りシートに教師のフィードバックを乗せることで、生徒の表現力を向上させることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・レポートの作成時に、調べた情報と既知の情報をまとめ、表現する力に課題がある。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・振り返りシートのフィードバックで毎時の調整力を向上させるとともに、AIを活用したレポート作成について指導し、技術的な課題を自主的に調べ、考えをまとめ、表現する機会を意図的に設定する。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>自分の考えや思いを、技術的な根拠を基に相手に伝えることができる生徒。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 家庭科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を活用しながら自身の考えをまとめ、具体的に表現すること。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 「基礎的な知識や技能の定着」,「生活をよりよく改善しようとする意識」が課題として挙げられる。その授業改善策として、自身の生活を振り返る時間を設け ICT 機器の活用や体験的な活動を取り入れながら、考えを深められるような授業構築を行い、既習事項を活かし生活をよりよく改善しようという意識を高められるように個に応じた適切な支援を行った。その結果として、体験的な活動を通して実生活と結び付けて考えられるようになり、既習事項をもとに実際に自身生活の中で生かそうとする機会が増えたようである。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識が定着しているかを確認するために、復習として副教材を活用している。また、既習事項を活かしながら考える授業内課題などを用いて、具体的に表現する機会を増やしている。 ・ICT機器を使用した振り返りシートを活用し、基礎的な知識と実生活での結び付きに注目させながら、振り返ることができるように教師がコメントを返す。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①基礎的な知識の定着を図るために繰り返し授業内で用語を使用したり、副教材で確認したりする。</p> <p>②既習事項を活用して自身の考えや意見をまとめる授業内課題や個に応じた適切な支援を行う。</p>	<p><検証方法></p> <p>①ワークシート, 授業の振り返り, 課題や実習記録, 年間3回の定期考査, 年間2回の授業評価アンケート</p> <p>②ワークシート, 授業の振り返り, 授業内での課題や実習記録, 年間3回の定期考査, 年間2回の授業評価アンケート</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p>①実習記録や振り返りの記述内容などに変化が見られた。また、定期考査でも知識の定着が確認できた。(課題, 振り返りシート, 定期考査等より)</p> <p>②授業中や振り返りの中で、既習事項を活用し、内容の理解を深める姿が見られた。(授業観察, 振り返りシート等より)</p> <p><課題></p> <p>自身の生活と結び付けながら、題材への理解をさらに深め、よりよい生活の実現に向けて創意工夫すること。</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の生活を振り返ることができるように導入を工夫し、既習事項を活用しながら振り返ったりまとめたりできるように声かけや個別で支援していく。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>よりよい生活の実現に向けて理解を深め、工夫を考えてさらに主体的に取り組むことができる生徒。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 外国語科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

令和7年度村学力調査結果から次のことが挙げられる。

- ・音声を聞き、活字体でアルファベットを解答する問題で目標値より20ポイント校内正答率が低かった。
- ・必要な情報を読み取り、紹介文の形式に合わせて英語で解答する問題で、クラス内の正答率は全国平均よりもやや低かった。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・「聞くこと」に関する課題として「長文がテストで流れた際に、何について話しているのか理解が間に合わなくなることがある。1文の細切れで再度流すと理解することができる。」と記載され、方策として、「ALTに速度を遅くして長文を音読してもらい、理解度を高める。」と挙げている。検証結果として「2回の再生で聞き取れない場合に、ALTに音読を依頼すると児童は内容を聞き取ることができた。」という成果が得られている。
- ・「読むこと」に関する記載なし。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・音声を聞く際に、1文の細切れで音声を流し、復唱する練習を实践。
- ・授業で英語ノートを使用し、正しくアルファベットを書けるように練習する。
- ・代名詞に注目して文章を読み、情報を整理しながら読む練習を授業内で実践。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①英語を書く際に、適切にアルファベットを書けているか、複数形や三人称単数現在等の細やかな文法に意識をするよう指導する。
- ②代名詞や指示語を意識して文章を読むよう指導する。

<検証方法>

- ①ノート・ワークシート回収。
- ②音読時、発問にて確認。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

- ①スペルチェックをした際に、自身の間違いに気付けるようになった。
- ②代名詞や指示語を理解し、自身の表現でも活用する姿が見られる。

<課題>

- ・急いで書くと複数形や動詞の活用などを忘れることがある。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・英文を書いた後にはスペルチェックをする指導を継続して行う。
- ・スペルチェックの後に、複数形や動詞の活用などの文法に関するミスを確認するといった、段階を分けた確認をするよう声をかける。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿

聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域において、学んだことを積極的に活用し、自身のことや場面の描写を英語で表すことができる生徒。

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 国語科〉

<p>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・村学力調査の領域別正答率では、「話すこと・聞くこと」の目標値 68.3%に対して、校内正答率 50%だった。・村学力調査の問題内容では、「漢字を書く」の目標値 56.7%に対して、校内正答率 50%だった・	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・「話すこと・聞くこと」については、令和5年度に当該の授業改善推進プランが作成されていない。・令和5年度1学期の段階では、第5学年までの既習漢字の定着率の低さが見られた。また、夏季休業明けには第6学年1学期学習の漢字も忘れてしまっていることが予想される。漢字の確実な定着に課題があると考えられる。 <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・話し合い活動を多く取り入れ、他者の意見をメモすること、自分の意見を言葉にすることを意識させている。・漢字練習プリントの配布やわからない漢字は調べさせ、漢字にたくさん触れさせている。漢字を調べる際、国語辞典で調べさせる。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①話し合いのポイントを考えながら実践させる。②週1回の漢字小テスト前にプリント学習をさせる。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①提出物、聞き取りテスト②漢字の小テスト、定期テスト
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">①話し合いの一つである討論のポイントが理解できた。②漢字ドリルには取り組むようになった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">①話し合い中に論点がずれてしまうことがあるのが課題である。②熟語の意味が分かっていなく正しく漢字を使えないことが課題である。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・辞書を使い漢字を調べられるよう指導する。・作文をくり返し書く機会を設定し、良い文章を書けるようにする。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>国語に興味をもち、言葉を大切に使える生徒。 積極的に読書をして様々なことを知識として蓄えていける生徒。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識を活用した表現力の向上 <p>例1 全国平均より上回っている。ただし、「世界の諸地域」の問題では全国平均を下回り、「飛鳥時代から平安時代」の問題ではとても低い正答率である。今後の課題改善の取組が必要である。（令和7年度 小笠原村学力調査の結果 参照）</p> <p>例2 令和7年度本校教科アンケート 「この教科の学習内容について、現在どの程度理解をしていますか」について、「あてはまる」「だいたいあてはまる」100%（1名中 1名）</p>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>令和5年5月実施の村学力調査では、「文章を書く」内容の問題がいずれも正答率0%という結果だった。したがって、文章を書くことに課題があると考えられる。4月実施の全国学力調査でも、同様の結果となった。⇒ 引き続き令和7年度の授業改善に活かしていく。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <p>今年度は、社会科として重要視している、多面的・多角的な深い学びを得られる授業構成により、表現力（文章構成など）を伸ばさせていく。（この表現力を『できる』力と定義する） 以下、方策に記す。【以上、特に歴史分野】</p>			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①小单元ごとに表現力を育成するパフォーマンス課題を設定する。また都度適切なサポートを実施する。</p> <p>②後期授業評価アンケートを実施する。</p> <p>③上記（2）の工夫を実践する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①課題の評価（第二観点 A～C以下）について、全課題・全生徒の評価平均の結果分析（目標値は平均値B以上） 【歴史分野】</p> <p>②・③に共通して 後期授業評価アンケートの結果分析（目標値は、理解度A【あてはまる】 B【だいたいあてはまる】100%）</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①小单元ごとに表現力を育成するパフォーマンス課題を設定する。また都度適切なサポートを実施する。</p> <p>②後期授業評価アンケートを実施する。</p> <p>③上記（2）の工夫を実践する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①課題の評価（第二観点 A～C以下）について、全課題・全生徒の評価平均の結果分析（目標値は平均値B以上） 【歴史分野】</p> <p>②・③に共通して 後期授業評価アンケートの結果分析（目標値は、理解度A【あてはまる】 B【だいたいあてはまる】100%）</p>
<p><方策></p> <p>①小单元ごとに表現力を育成するパフォーマンス課題を設定する。また都度適切なサポートを実施する。</p> <p>②後期授業評価アンケートを実施する。</p> <p>③上記（2）の工夫を実践する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①課題の評価（第二観点 A～C以下）について、全課題・全生徒の評価平均の結果分析（目標値は平均値B以上） 【歴史分野】</p> <p>②・③に共通して 後期授業評価アンケートの結果分析（目標値は、理解度A【あてはまる】 B【だいたいあてはまる】100%）</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>成果 ①目標値を上回ることができた。</p> <p>課題 ②理解度B50%・理解度C50% 社会的事象における理解度の向上が課題</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>欠課・欠席時における授業内容を補う時間の確保。</p>		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>社会科への関心がさらに高まり、自ら社会的事象に興味を抱くことで、地域の課題に目が向けられるようになっている生徒。</p>			

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 数学科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>2年生の数学を見ると、全国平均大きく上回っていて良好な状況である。データの活用の領域については、全国平均を下回っており、課題である。</p>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年5月実施の村学力調査では、「整数のなかま分け」「単体量あたりの大きさ」「多角形の内角の和の求め方を説明する」内容の問題がいずれも正答率0%という結果だった。第6学年以降の算数の学習においてもつながる内容であるため、確実に定着させることが必要となる。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎単元に自力解決で行う問題演習の前に、クイズ形式での理解を促す計算トレーニング。 「連立方程式」の単元において、ICT機器を使用した教え合い活動。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していくことで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top; border-left: 1px dashed black;"> <p><検証方法></p> <p>①小テスト 実施前と後に行い、定着度を確認する。</p> <p>②ICT機器を用いた発表 発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していくことで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①小テスト 実施前と後に行い、定着度を確認する。</p> <p>②ICT機器を用いた発表 発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。</p>
<p><方策></p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していくことで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①小テスト 実施前と後に行い、定着度を確認する。</p> <p>②ICT機器を用いた発表 発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果>スライドなどを使用し間違いやすいところや考えを説明できた。</p> <p><課題>問題の意図の読み間違いがたまにあることが課題である。</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>受検(受験)などの文章題で読み取る量が増えるため、読み取りの問題を増やしていく。</p>		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>問題の意図を正しく理解し、問題解決に使用できる生徒。</p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 理科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <p>令和7年度村学力調査結果より、次のことが挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・「火山」「地層」分野全体での正答率は40%を下回った。基礎知識の定着が課題である。・「光の性質」分野全体での正答率は40%を下回った。作図をして解答する問いに関しては、課題が見られる。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和5年度の学力調査の結果は、校内平均正答率が88.3%で、全国平均の66.1%を大きく上回る状況である。しかしながら、「けんび鏡の使い方」の短答問題（校内平均正答率 0% 全国平均正答率 26.1%）、「植物の発芽と成長」の選択問題（校内平均正答率 0% 全国平均正答率 16.0%）に課題が見られた。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・地球分野は中学校1年生で学習しているので、個々の能力に応じた復習問題を補充する。中学校2年生で学習する地球分野においても、タブレット端末を活用しモデル実験や図、映像資料を使い、主体的に考える学習活動を充実させる。・小テストの活用や授業内容をこまめに振り返ることで「知識・技能」の定着を図る。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①個々の能力に応じた復習問題を補充するためにタブレット端末を活用した学習活動を充実させる。②小テストの活用や授業内容をこまめに振り返ることで「知識・技能」を定着させる。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①ICTを用いた発表の評価と年間2回の授業評価アンケートの実施内容を分析する。②年間15回程度の小テストと年間4回の定期考査を実施し、内容を分析する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・復習の機会をより多く設けたことで、自分の考えをアウトプットできる生徒が増えた。・小テストや定期考査の結果から、文章読解力を要する問題の正答率を高めることができた。 <p><課題></p> <p>実験をモデルにした文章題を読み取る力はあるが、基礎知識やの百分率の計算でミスをする生徒が見られた。</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>小テストの予想問題を活用し、定期的に家庭学習の機会を設定する。また、基礎知識の定着を図るためにタブレットを用いて授業の振り返りを行う。</p>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>自然事物・事象に興味をもち、主体的に学習に取り組むことができる生徒。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 音楽科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

授業評価アンケートでは授業に対する理解に関する項目のみ「B」であり、他は全て「A」という結果となった。音楽活動への取り組みは意欲的であり、歌唱技能は高いものを持っている。しかし自ら立てた学習計画に基づいた取り組みについては課題がみられ、器楽の練習方法や鑑賞の記述が不十分であることが多い。それぞれの活動に対し、丁寧かつ粘り強く取り組むための方策が必要である。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・「基礎的な学力」の定着については改善が見られ、1学期の定期考査の点数も良好である。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・1の課題で述べた通り、計画的に学習を進めることに課題があり、そのことによって、本来発揮できる能力を十分に生かせないことが多い。学習目標を明確にして、それに向けた活動を支援していく。特に「～分までに」「～を」「～の回数行う」といったように可能な限り活動に関する項目を数値化し、時間内にきちんと達成する力を育成していく。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①毎時の課題を明確にし、時間内に達成できるように促す。
- ②学習資料の充実

<検証方法>

- ①ワークシート、授業展開の工夫
- ②題材に適した資料を複数配布し、主体的に調べながら学習に取り組めるか確認する。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

- ・徐々にではあるが、活動時間を意識した取り組みができるようになってきている。

<課題>

- ・記述課題の取り組みについては依然として課題が残る。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・表現、鑑賞の両面において短時間かつ量的なトレーニングを徹底して行うことにより、技能の定着化を図る必要がある。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿

粘り強く課題に取り組み、自分に自信をもって音楽表現ができる生徒。

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 美術科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>課題に取り組むという意識が低く、設定された活動を能動的に楽しんでおり、意欲は自らの興味・関心に左右される傾向が強いため、自ら主題を定めてゴールを設定したり逆算した過程を組み立てたりする経験を積み、課題解決に主体的に取り組む姿勢や自己調整力を身に付けることが課題。</p>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】</p> <p>授業アンケートの結果より、授業への興味・関心は高いが、学習内容の確実な定着については、授業者と児童の認識に乖離があるため、改善を図る必要がある。</p> <p>【改善策】</p> <p>表現活動を楽しむことだけに注力する傾向があるため、毎回の振り返りの時間が充実するように声かけを行い、「何を発見したか?」、「どこをどのように工夫したか?」「次はどうしたいか?」などを一つ一つ問いかけ、考えながら書く時間をとっている。</p> <p>【評価】</p> <p>ただ活動を楽しむだけで終わらずに、活動を振り返って自己評価ができるようになってきている本時の振り返りと自己評価を次回につなげたり前回からつなげたりする意識が具体的な行動や発言としては表出していないため、授業の導入とまとめの時間における声かけやワークシートの工夫など具体的な支援が必要である。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>作品制作の中間発表とグループでの鑑賞活動を行い、協働的な学びの場を設けて互いの作品のブラッシュアップの機会を増やしている。</p> <p>題材ごとの導入を丁寧に行い、スモールステップの設定と毎時の目標を細分化している。また、振り返りワークシートを用いて目標の達成に対する自己評価を行い、次回の自分に向けての覚え書きを残すなど、主体的に取り組みを継続できるようフィードバックも充実させながらルーティンを作っている。</p>			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</p> <p>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</p> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</p> <p>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</p>
<p>＜方策＞</p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</p> <p>②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <p>振り返りと自己評価の継続によって、事後に取組の中で不十分だった部分や改善点に気付くことができるようになった。</p> <p>＜課題＞</p> <p>振り返りや自己評価で考えながら記述したことを次の場面で活かしきれないことが多く、同様の反省を繰り返す様子が見られることが課題。</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>導入からゴールまでのステップが思い描けるように工程を可視化することを継続する。</p> <p>事後に振り返りや自己評価を実施するだけでなく、毎回導入時に前回の振り返りと自己評価を自ら確認して、反省事項を意識しながら取り組めるようにする習慣をつける。</p>		
<p>6. 令和7年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>自身の取組をメタ認知しながら、自己調整力や課題解決力を主体的に高めていくことができる生徒。</p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 保健体育科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

授業評価アンケートの結果より、「どんな力を身に付けたいか」という質問について、「運動の方法やその効果についての正しい知識」という回答が出ている。新体力テストの結果で全国平均を下回る種目が5つあることから、新体力テストのテスト種目と授業とを結びつけながら生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成していくことが課題である。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・新体力テストでは、全国平均を下回る種目が散見される。体力の向上を図るとともに、運動習慣の確立が必要である。
→単元に応じた補強運動を設定し、年間を通して体力の向上に努めている。
- ・授業の観察から、運動課題への不安が強いと取り組むまでに時間がかかる。苦手な児童ほど試行回数が減り、成長速度が遅れてしまうことが課題である。
→個々の体力や技能に応じた課題・ルールを設定し、児童が自己の目標をもって取り組むことができるようにしている。運動の特性に応じた楽しさを味わい、実践する意欲を育てている。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・技能の習得に繋がる補強運動を設定し、単元に応じた技能の習得を目指す。
- ・学ぶ内容の全体像や授業の流れ、技能の習得方法を示す際に、言葉だけではなく視覚的な手がかりやICT機器を活用する。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①年間2回の授業評価アンケートの実施をする。
- ②単元の全体像や学ぶ内容の重要事項やポイント、前時との関係性がわかるように板書やワークシート、スライドを活用する。

＜検証方法＞

- ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析
- ②スプレッドシートで授業内容の理解度を確認・分析。

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

技能習得に直結する補強運動を目的別に提示し、生徒自らが課題に合わせて選択する場を設けたことで、「自ら選ぶ練習」への転換が図られ、主体的な取り組みが顕著に見られた。

＜課題＞

『できた』を、いつでもできる『身についた』状態へ定着させる。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

自分の動きを動画等で確認することで、「イメージ」と「実際の動き」の一致を図る。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿

「一回の質」や「感覚の言語化」にこだわりをもって授業に取り組める生徒。

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 技術科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・学習における課題設定と、振り返りを習慣化させることが求められる。・実践的・体験的な学習活動では、全ての生徒が意欲的に取り組んでいるが、知識の観点で差が出てくる生徒がいる。			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容(別学年の中2内容記載)</p> <ul style="list-style-type: none">・学習振り返りシートを用意し、毎時間の授業の振り返りを学校でできるようにする。・グループワークを取り入れ、学び合いを活発化させることで知識・技能の習熟を図る。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・学習振り返りシートを用意し、毎時間の授業の振り返りに教師がコメントを返し、授業の理解度を深める。・事前学習プリントやレポート課題を通して、苦手である知識の定着を図る。			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0"><tr><td style="vertical-align: top;"><p><方策></p><p>① 生徒の振り返りに合わせて、教師が意図的に知識の定着を図れるようなコメントを記入する。</p><p>② レポートとその解説を通して、知識の定着を図る。</p></td><td style="vertical-align: top;"><p><検証方法></p><p>①課題, 考査, 授業評価アンケート</p><p>②課題, 考査, 授業評価アンケート</p></td></tr></table>		<p><方策></p> <p>① 生徒の振り返りに合わせて、教師が意図的に知識の定着を図れるようなコメントを記入する。</p> <p>② レポートとその解説を通して、知識の定着を図る。</p>	<p><検証方法></p> <p>①課題, 考査, 授業評価アンケート</p> <p>②課題, 考査, 授業評価アンケート</p>
<p><方策></p> <p>① 生徒の振り返りに合わせて、教師が意図的に知識の定着を図れるようなコメントを記入する。</p> <p>② レポートとその解説を通して、知識の定着を図る。</p>	<p><検証方法></p> <p>①課題, 考査, 授業評価アンケート</p> <p>②課題, 考査, 授業評価アンケート</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・振り返りシートを活用し、フィードバックによる支援を行ったことにより、特に調べ学習や作業において、自主的に活動ができるようになった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・技術分野におけるキーワード(技術的な根拠)を踏まえた上で、既知の知識と検索した知識を融合させて説明する力に課題がある。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・振り返りシートのフィードバックに、教師が意図的に技術分野のキーワードを活用し、本時で学んだことと技術の根拠が結び付けられるような言葉掛けを行い、より生徒の表現力を高められるよう、支援を継続する。また、AIを活用したレポート課題を設定し、思考・判断・表現力の向上を目指す。		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>使用条件や使用目的を踏まえ、自分の考えや思いを、技術的な根拠を基に相手に伝えることができる生徒。</p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 家庭科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・題材に対する興味関心に差があり、消極的になってしまうこと。・既習事項を活用し、自身の生活と結び付けて考えながら具体的に表現すること。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>「既習事項をもとに自身の意見や考えをまとめ、相手に分かりやすく伝えること」が課題として挙げられている。その授業改善策として実習や実践的な活動の機会を増やし、学習をまとめることで自身の考えを深めることができたようである。</p> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・実習や実験などの実践的で体験的な活動の機会や ICT 機器を活用しながら視覚教材を増やし、興味関心を高めている。・実習や製作の記録課題や毎授業の振り返りを用いて、自分の考えや意見を具体的に表現する機会を増やしている。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①体験的な活動や視覚教材を活用しながら、興味関心を高める。②既習事項の活用を意識した声掛けと個に応じた適切な支援。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①授業の振り返り、課題や実習記録、年間3回の定期考査、年間2回の授業評価アンケート②ワークシート、授業の振り返り、授業内での課題や実習記録、年間3回の定期考査、年間2回の授業評価アンケート
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">①どの題材においても自身の生活を振り返りながら発言したり、意見をまとめたりすることができた。(授業観察、課題、振り返りシート等より)②既習事項を活用しながら振り返り、実生活と結び付けて考える記述が多く見られた。(定期考査、課題、振り返りシート等より) <p><課題></p> <p>よりよい生活の実現に向けて工夫し考え、さらに主体的に取り組むこと。</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・既習事項を活用し、題材への理解を深めながらよりよい生活の実現に向けて工夫を考えて表現する機会を増やす。引き続き、個に応じた適切な支援や声かけをしていく。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>既習事項を活用しながら主体的に取り組み、自身の考えを表現することができる生徒。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 外国語科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

令和7年度村学力調査結果から次のことが挙げられる。

- ・「書くこと」における、校内正答率が目標値よりも14.0%低く、問題の内容別評価と正答率では、「場面に応じて書く英作文」、「情報に基づいて書く英作文」、「春休みにしたことについての英作文」が他の問題に比べて正答率が低い。また、観点別評価の正答率では、知識・技能は目標値を6.9%上回っているが、思考・判断・表現では、目標値を下回っている。以上のことから、学んだことを活用したり、自身の意見や体験を英語で表現したりすることに課題が見られる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・「書くこと」に関する記載なし。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・「書くこと」や「話すこと」の活動の際に、分からない単語や表現方法が出てきた際には、調べる手立てを伝え、調べたり活用したりする時間を設ける。
- ・自身の考えや体験を英語で表現する際には、事前に表に整理したり、箇条書きでアイデアを書き出したりする時間を設ける。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①教科書の各ユニット末についている表現活動を実践し、学んだことを活用する時間を設ける。
- ②「書くこと」、「話すこと」を行った後には良かった点、次に生かせるアドバイスを指導する。

<検証方法>

- ①ノート、ワークシートの回収
- ②各ユニットでの生徒の取り組み方、様子の違いを評価。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

- ①表や箇条書きを用いて整理しながら表現する事で、学んだことを生かして自己表現ができるようになった。
- ②「書くこと」、「話すこと」を行った後にフィードバックをすることで、アウトプットに対する意欲を保つことができた。

<課題>

- ・英語を書く際に文法はあっているが、単語のスペルミスが見られる。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・継続して書く活動を行い、1度の授業で扱う新出語彙を絞り、定着させやすくする。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿

聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域において、学んだことを積極的に活用し、自身の意見や場面の描写を英語で表すことができる生徒。

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・村学力調査の領域別正答率では、「情報の扱い方に関する事項」の目標値75%に対して、校内正答率50%だった。・全国学力調査の問題内容では、「話すこと・聞くこと」の全国平均正答率55%に対して25%だった。・全国学力調査の問題内容では、「書くこと」の全国平均正答率56%に対して40%だった。	
<p>2. 過大改善に向けた取り組み状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・「情報の扱い方に関する事項」については、令和5年度に当該の授業改善推進プランが作成されていない。・「話すこと・聞くこと」については、令和5年度に当該の授業改善推進プランが作成されていない。・「書くこと」については、令和5年度に当該の授業改善推進プランが作成されていない。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・情報の読み取り方の授業や調べ学習等を通して正しい情報の読み取り方を実践させている。・話し合い活動を多く取り入れ、他者の意見をメモすること、自分の意見を言葉にすることを意識させている。・たくさんの文章に触れさせ、真似させている。時間を設定して書く時間をたくさん作り、書くことに慣れさせる。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ol style="list-style-type: none">①読み取ったことを端的にまとめさせる。②話し合いのポイントを考えながら実践させる。③作文を書く活動を計画的に実施し、良い作文を真似させ、型をつくっていく。	<p><検証方法></p> <ol style="list-style-type: none">①提出物②提出物、聞き取りテスト③定期テストや授業内の作文で正しく書けているか確認する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ol style="list-style-type: none">①重要な語句を理解し、まとめることができた。②意義のある話し合いができた。③作文をくり返し書くことで作文の型ができた。 <p><課題></p> <ol style="list-style-type: none">①不安でたくさんの文言を入れてしまうことが課題である。②話し合いが続かないことが課題である。③長い文章を書くことが課題である。	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・言葉を大切にできるように指導する。・わからないことは国語辞典を使って調べられるよう指導する。
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>国語に興味をもち、言葉を大切に使える生徒。 積極的に読書をして様々なことを知識として蓄えていける生徒。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <p>知識を活用した表現力の向上</p> <p>例1 すべての領域において全国平均よりも上回っており、良好な状況といえる。しかし「ヨーロッパ人との出会いと全国統一」の問題と「明治時代」の問題では全国平均を下回っている。 (令和7年度 小笠原村学力調査の結果 参照)</p> <p>例2 令和7年度本校教科アンケート 「この教科の学習内容について、現在どの程度理解をしていますか」について、「あてはまる」「だいたいあてはまる」 約50% (4名中 2名)</p>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>歴史的分野、特に近代から現代史の範囲の理解度に課題がある。</p> <p>例1 ・「日本国憲法」の内容について (正答率41.7% 令和5年度 村学力調査の結果 参照)</p> <p>例2 ・令和5年度本校1学年対象教科アンケート 「この教科の学習内容について、現在どの程度理解をしていますか」 ⇒「だいたいあてはまる」 100% (4名中 4名)</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <p>上記解決すべき課題に記したように、まずは知識理解を促す必要がある。そのため、以下に記す方策を実施し、「わかる」⇒「できる」という順序で授業実践を行っていく。</p>			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①基礎知識を問う小テストを実施する。</p> <p>②小单元ごとに表現力を育成するパフォーマンス課題を設定する。また都度適切なサポートを実施する。</p> <p>③後期授業評価アンケートを実施する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①テスト結果を分析する。</p> <p>②課題の評価(第二観点 A~C以下)について、全課題・全生徒の評価平均の結果分析(目標値は平均値B以上)</p> <p>③後期授業評価アンケートの結果分析(目標値は、理解度A【あてはまる】 B【だいたいあてはまる】100%)</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①基礎知識を問う小テストを実施する。</p> <p>②小单元ごとに表現力を育成するパフォーマンス課題を設定する。また都度適切なサポートを実施する。</p> <p>③後期授業評価アンケートを実施する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①テスト結果を分析する。</p> <p>②課題の評価(第二観点 A~C以下)について、全課題・全生徒の評価平均の結果分析(目標値は平均値B以上)</p> <p>③後期授業評価アンケートの結果分析(目標値は、理解度A【あてはまる】 B【だいたいあてはまる】100%)</p>
<p><方策></p> <p>①基礎知識を問う小テストを実施する。</p> <p>②小单元ごとに表現力を育成するパフォーマンス課題を設定する。また都度適切なサポートを実施する。</p> <p>③後期授業評価アンケートを実施する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①テスト結果を分析する。</p> <p>②課題の評価(第二観点 A~C以下)について、全課題・全生徒の評価平均の結果分析(目標値は平均値B以上)</p> <p>③後期授業評価アンケートの結果分析(目標値は、理解度A【あてはまる】 B【だいたいあてはまる】100%)</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>成果</p> <p>① 分析を行い、以下の②・③に活用した。</p> <p>② 目標値を上回った。</p> <p>課題</p> <p>③ 理解度B50%, 理解度C50% 社会的事象における理解度の向上が課題</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>社会的事象における理解度の向上を図るための、適切な課題の設定。</p>		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>社会科への関心がさらに高まり、自ら社会的事象に興味を抱くことで、世界の課題に目が向けられるようになっている生徒。</p>			

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 数学科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>3年生の数学を見ると、全国平均を大きく上回っており、良好な状況である。特に昨年度の課題であった証明の内容については、問題文を読むという苦手意識もあり、正答率が低かった。しかし全国平均は越えることができた。</p>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和4年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生の数学を見ると、全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況であるが、問題の内容は、「百分率」と「面積と体積」に課題があるといえる。特に「百分率」などの割合に関する計算方法はどの単元にも必要となるため、復習が必要である。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 「展開・因数分解」の単元において、記述しながらの演習の前にクイズ形式での理解を促す計算トレーニング。 関数の単元でICT機器を活用した教え合い活動。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top; border-right: 1px dashed black;"> <p><方策></p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していくことで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①小テスト 実施前と後に行い、定着度を確認する。</p> <p>②ICT機器を用いた発表 発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していくことで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①小テスト 実施前と後に行い、定着度を確認する。</p> <p>②ICT機器を用いた発表 発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。</p>
<p><方策></p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していくことで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①小テスト 実施前と後に行い、定着度を確認する。</p> <p>②ICT機器を用いた発表 発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果>問題の意図の読み取りなど、理解が高まり、ミスが減らすことができた。</p> <p><課題>多数の単元を含む複合問題で混乱することが多少あることが課題である。</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>複合問題では既習事項を整理し、公式や知識を正しく使う。</p>		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>中学校で習った知識を正しく使い問題解決に取り組む生徒。</p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 理科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

令和7年度村学力調査結果より、次のことが挙げられる。

- ・「電流の性質」「電流と磁界」分野全体の正答率は50%を下回った。また「気象の観測」における気圧の計算では正答率は0%と突出して低かった。
- ・数値計算、表等の資料を読み取る問いに関しては、全般的に課題が見られる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・「水溶液の性質」「てこのはたらき」の正答率は40%を下回った。どちらも基礎知識の定着が課題である。
- ・会話文やまとめられた図、表、グラフ等の資料を読み取る問いに関しては、この単元のみならず全般的に課題が見られる。
- ・「活用」の正答率が36.7%であり、日常生活と知識の関連付けが課題である。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・「電流の正体」における数値計算は復習として、3年間の復習教材を個々の能力に応じ補充する。
- ・高校入試対策問題から思考・応用する問題演習に取り組むことで、表やグラフ等の資料を読み取る力を身に付ける。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ① 3年間の復習教材を個々の能力に応じ補充する。
- ② 高校入試対策問題から思考・応用する問題演習に取り組むことで、活用を身に付ける。

<検証方法>

- ① 年間2回の授業評価アンケートの実施内容を分析する。
- ② 年間15回程度の小テストと年間4回の定期考査を実施した内容を分析する。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

- ・実験を例とした文章問題から図、表、グラフを読み取り、読解力と表現力を高めることができた。
- ・入試対策の形式にも慣れ、知識を活用する力を身に付けることができた。

<課題>

身に付けた知識を活用し、理科的の専門的な用語を用いて説明する力に課題が見られた。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

基礎知識を身に付け、内容に対する自分の考えや科学的根拠に基づいてディベートを行うなど、言語活動の機会を設定することで知識の定着を図る。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿

自然事物・事象に興味をもち、専門的な知識の向上にむけて意欲的に学習できる生徒。

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 音楽科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

授業評価アンケートの興味・関心の部分に関しては全員Aの当てはまるとなっているが、学習の理解に関する項目にはBが付けられている。実際の活動では全体として理解度も高く、前向きに学習に取り組んでいるように見られるが、表現することに対していくらかの自信のなさが見られる。特に「完璧に演奏しなければならない」といった思いが強く見られ「ここまでできた」ではなく「まだここができていない」という思いの方が強くでてしまう傾向がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

・「作曲家視点の立場にたった歌唱指導」の成果から、楽曲の歴史的背景や作曲者の思いなどを考えながら記述したり、表現したりできるようになってきている。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

・歌唱・器楽・創作・鑑賞のすべての領域において、自己評価及び次の課題を記述する活動を取り入れ、次の活動に生かす。また『できる』と判断される演奏例や記述例を適宜提示しながら、演奏発表という目標に向かって主体的、かつ計画的に学習に取り組む仕組みを作る。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①授業内の実技発表を実施する
- ②アンケートを実施する。

<検証方法>

- ①授業内での実技発表の分析
- ②授業内アンケート結果の分析

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

・自身の活動をふり返ることによって、それぞれの課題をきちんと認識し、前向きに取り組めるようになった。

<課題>

・個々の技能の向上は見られたが、アンサンブル課題において、お互いの音を聴きながら合わせる技能については課題が残った。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

・多様な音楽文化に対する理解を深め、興味をもてるための課題設定。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿

生涯に渡って音楽を愛好し、世界の多様な音楽文化を理解、尊重できる生徒。

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 美術科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

課題への取組の中でこれまでの経験を生かすことができないわけではないが、目の前にある課題と既習事項や経験との結びつきに自ら気づくことが難しいため、体系的にとらえる視点を身に付けていくことが課題。また、自己調整力やより汎用的な課題解決の力を磨いていくことも課題である。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

【課題】授業評価アンケートの結果より、授業への興味・関心は高いといえるが、学習内容の理解や確実な定着については課題が見られる。

【改善策】「表現したい」という欲求がとても強いため、どのように表現するかを深く考えさせる構成でワークシートを活用してイメージや工程を整理したり図示したりする。自身の感覚や気持ちを大切にし、発想を刺激し合いながらグループでよりよい表現について考える場を設定する。

【評価】表現活動に意欲的で授業内のすべての活動に真摯に取り組む姿勢が見られ、与えられた課題も細分化されたステップごとに解決していこうとする意識が高いため、成果が作品に顕著に表れている。また鑑賞活動がよりよい表現に結びつくという意識をもって取り組むことができしており、これらの経験が体系的に結びついてより汎用的な課題解決力を養っていけるよう意図した授業改善を継続していく。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

作品制作の中間発表とグループでの鑑賞活動を継続して行い、協働的な学びの場を設けて多面的・多角的な視点で思考する経験を積み重ねている。

題材ごとの導入を丁寧に行い、スモールステップの設定と毎時の目標を細分化している。また、振り返りワークシートを用いて目標の達成に対する自己評価を行い、次回の自分に向けての覚え書きを残すなど、主体的に取り組みを継続できるようフィードバックも充実させながらルーティンを作り、こまめなりマインドを欠かさないようにしている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①年間2回授業評価アンケートを実施する。
- ②授業ごとの振り返りや題材ごとのまとめの活動を充実させる。

＜検証方法＞

- ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。
- ②振り返りワークシートのフィードバックを行い、自己評価を継続して比較する。

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

教科横断的に既習事項を活用して構想を練り、身に付けた知識・技能を發揮しながら作品制作に取り組むことができた。また、これまでの経験を活かしながら見通しをもって課題解決に取り組み、自ら主体的に考え行動する様子が見られた。

＜課題＞

容易に膨大な量の情報に触れることができ、生成AIを利用する場面も見られるが、情報の真偽を確かめたり精査したりする能力が弱く、学習に活かしきれていないことが課題。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

課題解決等に必要な情報を収集する作業をする際には、メディアリテラシーを正しく身に付けられているか計ることや、情報を精査するトレーニングのような事前のワークプログラムの設定が必要だと考えられる。

導入からゴールまで見通しをもつための工程表や、進捗状況の共有ができるシステムを活用することを継続する。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿

既習事項や経験を汎用的な能力として積極的に活用し、より主体的に課題解決に取り組む生徒。

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 保健体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>授業評価アンケートの結果より、「教科の関心を高められているか」、「内容を理解しているか」という質問に対して全生徒が肯定的にとらえおり、授業での学びを実生活に生かしたいという意識を持ち授業に取り組んでいる。男女ともに新体力テストで全国平均を全種目上回っているが、結果を基準にしてどの単元で・実生活で、どのように生かすことができるかを深めることができていないのが課題である。</p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートの結果にある「授業で身に付けたことがどのようなときに生かされるか」という質問について、体力の向上に関する内容にとどまっており、学習内容を十分に深めることができていない。 <p>→体力やコーディネーション能力の向上を目的とした補強運動の設定や多様な運動を経験することで、バランスのよい体力の向上を目指している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストでは、全国平均を上回る種目が多かったが、握力とハンドボール投げに課題がある <p>→学習カードやICT機器を活用し、運動のポイントが視覚的に分かりやすいように工夫している。</p> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技能の習得に繋がる補強運動を設定し、単元に応じた技能の習得を目指す。 ・補強運動や学習内容を自分の目的に合わせて選択できるようにして、主体的な取り組みを促す。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施をする。</p> <p>②単元の全体像や学ぶ内容の重要事項やポイント、前時との関係性がわかるように板書やワークシート、スライドを活用する。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>②スプレッドシートで授業内容の理解度を確認・分析。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <p>スプレッドシートやアンケートによる多角的な分析の結果、生徒自身が「何がわかって、何ができないか」を客観的に把握できるようになった。これにより、自己の課題に基づいた合理的な練習を選択する力が向上した。</p> <p>＜課題＞</p> <p>自己完結させず、互いの課題解決をサポートし合う関係性の構築が必要である。自己分析による「個」の学びから、他者の視点を介在させることで客観視能力のさらなる深化を図ることが必要である。</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>相互コーチングによる練習内容の最適化。</p>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>他者の動きを分析・言語化することで、自身の技能習得への理解も高められる生徒。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 技術科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習における課題設定と、振り返りを習慣化させることが求められる。 ・実践的・体験的な学習活動では、全ての生徒が意欲的に取り組んでいるが、知識・技能の観点で差が出てくる生徒がいる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習振り返りシートを用意し、毎時間の授業の振り返りを家庭でできるようにする。 ・ノート, ワークシート, 事前学習プリントを用いて知識の定着を図る。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習振り返りシートを用意し、毎時間の授業の振り返りに教師がコメントを返し、授業の理解度を深める。 ・現代社会の情報に関する課題について自ら調べるレポート課題を通じ、生徒が情報社会で適切に行動できる知識を身に着けるとともに、課題解決力を高める。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①学習の理解度が本人にフィードバックされるように振り返りシートに記入させ、適切な支援を行う。</p> <p>②レポートを通じて社会の課題に気付き、解決できる能力を身に付けられるようにする。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①課題, 考査, 授業評価アンケート</p> <p>②課題, 考査, 授業評価アンケート</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①学習の理解度が本人にフィードバックされるように振り返りシートに記入させ、適切な支援を行う。</p> <p>②レポートを通じて社会の課題に気付き、解決できる能力を身に付けられるようにする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①課題, 考査, 授業評価アンケート</p> <p>②課題, 考査, 授業評価アンケート</p>
<p><方策></p> <p>①学習の理解度が本人にフィードバックされるように振り返りシートに記入させ、適切な支援を行う。</p> <p>②レポートを通じて社会の課題に気付き、解決できる能力を身に付けられるようにする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①課題, 考査, 授業評価アンケート</p> <p>②課題, 考査, 授業評価アンケート</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>振り返りシートのフィードバックにより、生徒の記述がより技術的な根拠をもとに表現できるようになった。</p> <p><課題></p> <p>AIを活用した調べ学習では、自己の考えとAIから得た考えの整合性をとりながら、課題を解決していく活動について課題があった。</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>AIの活用について後期課程1年生のレポート課題から段階を踏んで指導することで「総合的な技術の課題解決」のような抽象的な問題の解決を考えるという高難易度の課題を達成できるように、3年間を見据えた指導を行う。</p>		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>技術に込められた意図や願いを踏まえ、技術的な根拠を基に他者と協働しながら課題解決に取り組むことができる生徒。</p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 家庭科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・既習事項を活用しながら、自身の考えや意見をまとめ具体的に表現すること。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

既習事項を活用しながら自身の考えを深めること」や「題材によって興味関心の差があること」が課題として挙げられる。その授業改善策として、動画などの視覚教材を活用して具体的なイメージをもたせやすくしたり、体験的な活動の機会を増やしたりすることで、既習事項を活用して考えを深めようとしたり、それぞれの題材を実生活と結び付けて自分ごととして考えようとする生徒が増えたようである。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・ICT機器を使用した振り返りシートを活用し、既習事項の活用を意識付けながら、授業を振り返ることができるように教師がコメントを返している。
- ・既習事項をもとに、自身の考えをまとめて表現する授業内課題や、グループワークなどを通して内容の理解を深められるように指導している。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①既習事項の活用を意識付ける声掛けと個に応じた適切な支援を行う。
- ②授業内での体験的な活動をまとめ、記録課題等で自身の考えを表現する機会を増やす。

<検証方法>

- ①ワークシート、振り返り、授業内での課題や実習記録、年間2回の授業評価アンケート、年間3回の定期考査
- ②ワークシート、振り返り、授業内での課題や実習記録、年間2回の授業評価アンケート、年間3回の定期考査

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

- ①既習事項を活用しながら課題に取り組んだり、振り返ったり、題材をまとめたりする姿が見られた。(授業観察、課題、振り返りシート等より)
- ②自身の考えを実生活と結び付けながら表現したり、よりよい生活の実現に向けて、工夫を思考し表現したりする姿が見られた。(実習記録、課題、振り返りシート、定期考査等より)

<課題>

知識や技能の定着、実生活に結び付けて題材への理解を深めることはできたが、それを言語化したり表現したりする力に課題が残る。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・実生活と結び付けながら考えるという意識をもたせ続けられるように声かけや授業外での日常の話題として取り上げる。
- ・中学校での学びを活かし、高校家庭科の内容につなげられるように自身の生活を振り返る機会を増やしていく。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する生徒の姿

常に実生活と結び付けて考え、よりよい生活の実現に向けて主体的に取り組みながら表現することができる生徒。

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 外国語科〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

令和7年度村学力調査結果から次のことが挙げられる。

- ・「書くこと」に関する問題で、クラスの半数は全国平均を大きく上回るが、他の半数の生徒は全校平均を下回っている。
- ・クラス全体として、「さまざまな英文の読み取り」の正答率が低く、問題の出題形式から、概要を捉えたり、対話の流れを把握したりする力がまだ十分ではない。

2. 課題改善に向けた取り組み状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・「書くこと」に関する課題として村学力調査の結果から「同調査において、「書くこと」の領域の中でも、「英作文」の正答率が70.0%と、とりわけ低い。」と記載され、方策として、「生徒用タブレット内のデジタル教科書を活用した個別学習や、互いに問題を出し合うペア活動、家庭学習での反復練習を通して新出語句や文法事項の学習を行う。」と挙げている。検証結果として「小テストで正答できた語句でも、自分のことを表現する活動においてうまく活用できない場面も見られた。」という課題が見られている。
- ・「読むこと」に関する記載なし。

(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・「書くこと」の活動の際に、分からない単語や表現方法が出てきた際には、調べる手立てを伝え、調べたり活用したりする時間を設ける。
- ・「読むこと」に関する活動の際には、おおまかに内容を捉えたり、細かく情報を整理したりする様々な読み方の活動を行う。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

〈方策〉

- ①教科書の各ユニット末についている表現活動を実践し、学んだことを活用して書く活動を設ける。
- ②読む活動の前に、読んだ後にどのような活動をするかを伝え、適切な読み方が判断できるよう指導する。

〈検証方法〉

- ①, ②ノート, ワークシートの回収

4. 検証結果(成果と課題)

〈成果〉

- ①書く活動を通して、主語、動詞の語順など基本的な文型が定着できた。
- ②読んだ後に行う活動を見通して読むことで、内容を整理しながら適切な読み方を選択できるようになった。

〈課題〉

- ・語彙の知識の定着がまだ十分ではなく、読む活動の際に分からない単語があると手が止まってしまう。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・学んだ新出語彙に繰り返し触れる機会を意図的に授業内で設ける。
- ・新出語彙を見つけた際に意味を推測する練習を授業内で行う。

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

聞くこと, 読むこと, 話すこと[やり取り], 話すこと[発表], 書くことの五つの領域において、学んだことを積極的に活用し、自身の意見や調べて得た知識を英語で表すことができる生徒。